

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

# 幼の散育

主 幹

堀 七 藏

第 二 卷 第 二 號 第 二 號

本邦に於ける幼稚園教育史……堀 七 藏  
きびから細工（其四）……山 形 寛  
英ちやん物語……鹿 の 子  
維納市に於ける幼稚園に就  
いて……小 山 秀 子  
育兒叢談（八）……記 者  
猿が恩を返した話……金 子 彦 二 郎  
和歌山保育會の成立と活動……中 橋 楠 雄  
我が園の一日……山 崎 ひ さ 子  
長編 小説 兼ちやん……岡 田 美 津  
自由遊び……ふ じ の 譯

文野先生  
學陽新  
士一著

# 兒童心理學精義

增訂十版

第一冊全判  
紙數七十五  
插畫五  
定價五圓  
洋錢拾貳  
餘錢拾貳  
餘錢拾貳

上野先生心理學研究會を創設し斯學を研究する正に十年その學に忠實なる世既に定評あり今學界の等しく渴望して止まざりし本書は成れり本書は二十三章幾百節に分ち詳論精銳を加へ多數の插畫を以て學者研究の材料に資すべく努めたる斯界唯一の文檢受驗者すべき絶好の研究資料である

文部省囑託  
青木誠四郎  
先生新著

## 劣等兒 低能兒 心理と其教育

增訂 改版

一六價送  
冊百參料  
洋百圓全  
紙百圓全  
數十拾八  
錢拾八錢  
本書一度び世に出でて好評赫々版を重  
れること正に四益々その要求は盛なり  
本書は心理學的方法等々を實入し究  
る取扱い教育的方法等々を實入し究  
多數の插畫を應用し懇切丁寧に詳述せ  
られたるものである

青木誠四郎著  
文藝士

## 兒童心理學序說

全一圓參拾錢  
定價貳圓五拾錢  
送料拾八錢

本書は單に知識の敘述するに止らず進んで兒童研究の方法を説いて其問題を提供した

寺田精一著  
文藝士

## 兒童の惡癖

全一圓參拾錢  
定價貳圓五拾錢  
送料拾八錢

本書は兒童の惡癖の性質原因の研究とその矯正法の心理學的の概念である。簡明に説述したる實際的兒童教育の良書である。

福富一郎著  
文藝士

## メンテスタの原理

全一圓參拾錢  
定價貳圓五拾錢  
送料拾八錢

本書は理論及び實際に於いてなせる眞學なる研究の成果で最も親切丁寧に於いて且つ基本的科學的なる解釋を提供し得る好著である

東京高等師範學校教授  
獲原擴  
先生著

# 現代社會思想倫理的批判

全紙數七百四十頁  
定價七圓四角  
送料十八錢

公平なる敘述  
公正なる批評  
この典型!!

文要 檢書

思想問題社會問題は國民全體にとつての重要問題であつて、其の對策如何によつて國民の危機すら生じかねない。我が國民現下の急務は、各種社會改造の思想及び運動を正當に理解し公平に批判する力をもつにある。本書は斯かる精神に本づく、民族生活、兩性關係、經濟生活、國家生活に關する新著思想及び改造運動を敘すると共に、健全妥當なる倫理的的人生觀によつて其等思想及び運動を綜合的に批判したるものである。學者、教育者、政治家、行政官、司法官、社會事業家、その他各方面の識者は、本書の精讀により、必ずや社會改善の針路について確たる信念を得らるべきことと信する。

小松耕輔・梁田貞・葛原齒共著

# 大正幼年唱歌

◇ 郵稅各二錢 ◇

## 全二十册完成

◇ 定價各册金廿五錢 ◇

<p>次目集第六 五四三二一 向七虹お水 日面 葵鳥 猿車</p> <p>一〇九八七六 竹夏雨夕と 休鳥人 馬み郎立ぼ</p> <p>次目集第二十第 五四三二一 子人鷓鴣と 蜘蛛 猫陽</p> <p>一〇九八七六 木森遊あ のひさ 唱ひな 馬歌戯る花</p>	<p>次目集第五第 五四三二一 五〇お躑野ご べんた遊も んたう山ぼびん</p> <p>一〇九八七六 一〇鬼お燕か雛 お少玉たつむり 鳥がヒヤウ子</p> <p>次目集第十第 五四三二一 雲花小三私 瓶羽のの花 のの花犬雀壇</p> <p>一〇九八七六 一〇カ少小雲私 カンガ兵さは善い ルガル兵士子</p>	<p>次目集第四第 五四三二一 紀雪梅雙一 元 六月 節 遊一日</p> <p>一〇九八七六 一〇犬積活鷓鴣 動トオ と寫オ 猫木眞鷓鴣ウ</p> <p>次目集第十第 五四三二一 蟻自ステ福 動イ念茶 車ン日釜</p> <p>一〇九八七六 一〇鈴進獨朝蓄 のの</p> <p>音軍樂類菱</p>	<p>次目集第三第 五四三二一 落天飛蟲お 音長行の月 機節船え様</p> <p>一〇九八七六 一〇木落暎運林 舟動會の 泥舟葉掛朝楡</p> <p>次目集第九第 五四三二一 時雲風舌 切 計雀車雀</p> <p>一〇九八七六 一〇細電鯉踏蜜 まの つぼ り話り駝蜂</p>	<p>次目集第二第 五四三二一 汽藤ほ噴 ヤのた ボン 玉車花る水</p> <p>一〇九八七六 一〇せおブ小か ラさへ ンな み船コ鯉る</p> <p>次目集第八第 五四三二一 猿紙おお餅 蟹風日角搗 合船様力き</p> <p>一〇九八七六 一〇大軍熊疊あ みら</p> <p>砲艦 紙れ</p>	<p>次目集一第 五四三二一 私蝶飛さ幼 のと行く稚 先春 生風機ら園</p> <p>一〇九八七六 一〇かおおおヒ かくれん人草花ノ ぼ馬形花ノ</p> <p>次目集第七第 五四三二一 お電雁おお 祭砂星 り車遊び様</p> <p>一〇九八七六 一〇乳菊お粘象 客土細 母様工</p>
---	--	---	---	--	--

店書黒目

五ノ二町馬傳南區橋京市京東  
番九〇八二第京東座口替振

所行發



# 日本幼稚園協會編輯幼兒教育

會長

東京女子高等師範學校校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

市洋大學教授

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校校長

東京高師教授

太田孝之

帝國教育會理事

慶應大學教授

大瀨甚太郎

松江高等學校長

早蕨幼稚園長

唐澤光德

京都帝大教授

帝國教育會會長

久留島武彦

東京女子高師教授

東京高師教授

澤柳政太郎

東京女子高師教授

東京女子高師教授

佐々木秀一

東京帝大教授

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

醫學博士

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

東京市學務課長

藤井利譽

東京高等學校長

東京女子高師講師

藤五代策

東京帝大教授

長崎縣師範學校長

福士末之助

東京帝大教授

醫學博士

谷本富

日本文女子大學長

醫學博士

安井哲子

東京帝大教授

柳橋源太郎

田子一民

高島平三郎

龍山義亮

土川五郎

野口援太郎

乘杉嘉壽

野上俊夫

弘田長

倉橋惣三

松村武雄

松本亦太郎

榎山榮次

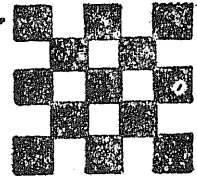
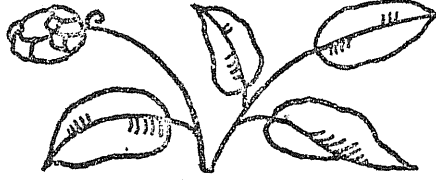
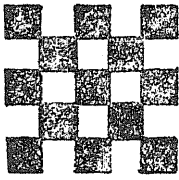
三田谷啓

森川正雄

湯原元一

吉田熊次





號 二 第

# 育 教 の 兒 幼

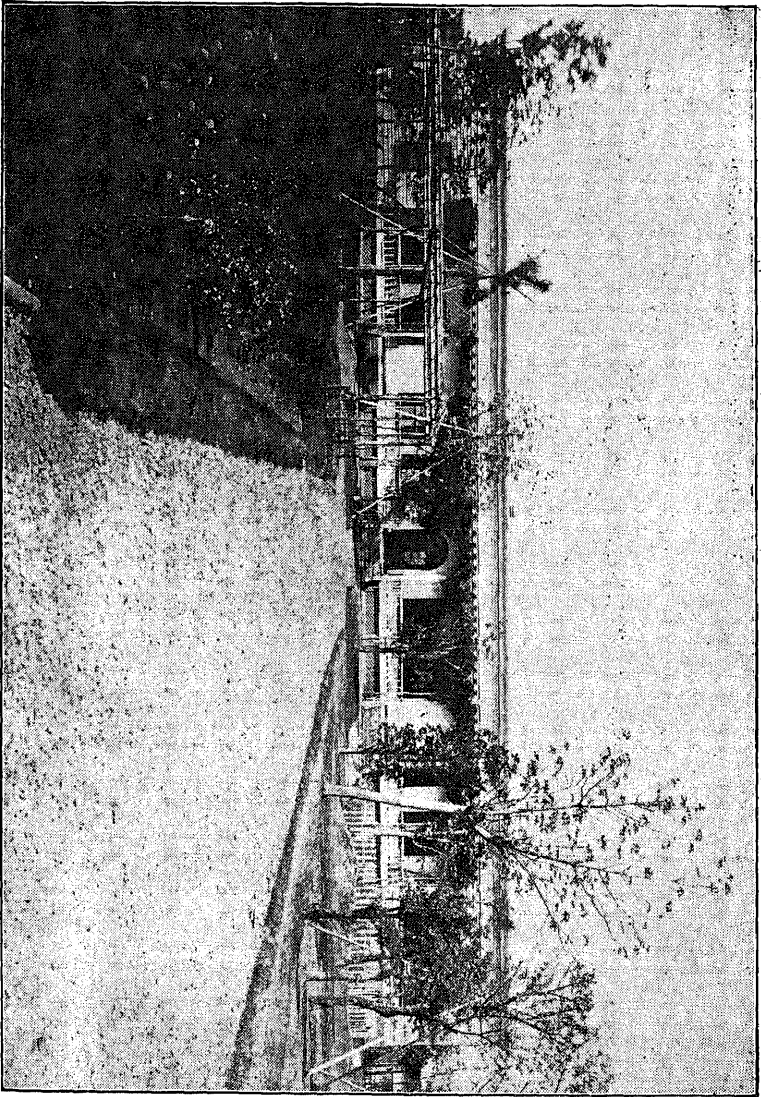
卷六十二第

—(次 目)—

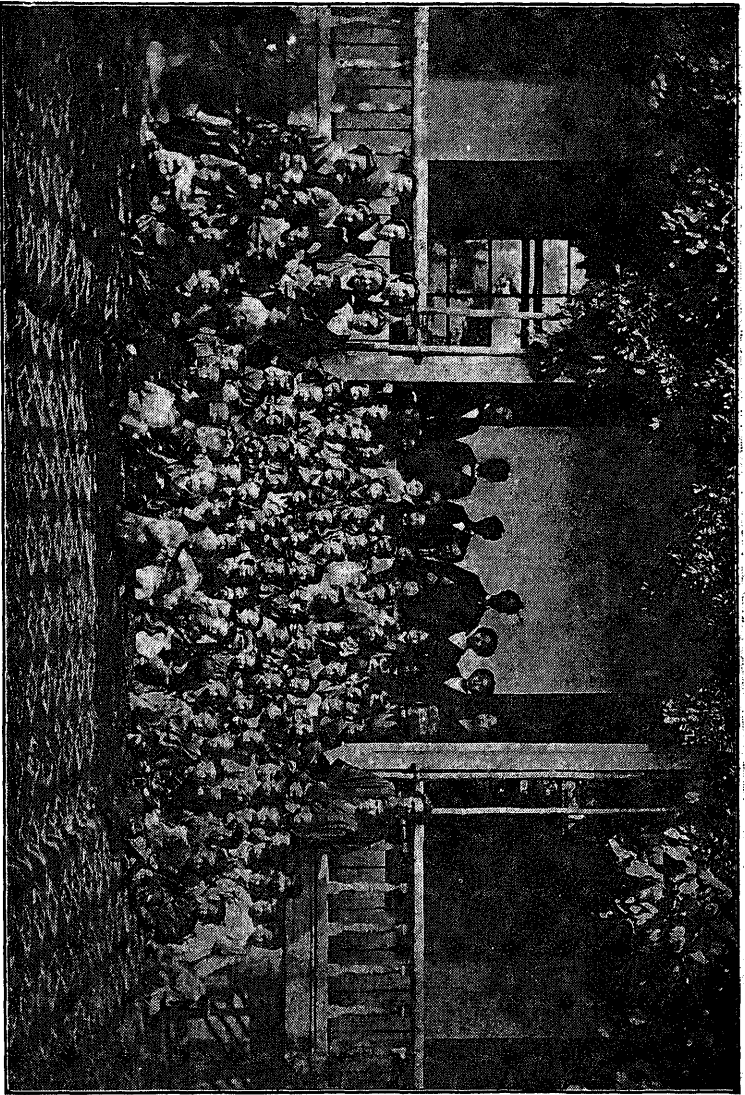
本邦に於ける幼稚園教育史……………堀	七 藏……………三頁
きびがら細工(其四)……………山	形 寛……………九頁
英ちやん物語……………鹿	の 子……………九頁
維納市に於ける幼稚園に就いて……………小	山 秀 子……………三頁
育兒叢談(八)……………記	者……………二頁
猿が恩を返した話……………金	子 彦 二 郎……………二頁
和歌山保育會の成立と活動……………中	橋 楠 雄……………四頁
我が園の一日……………山	崎 ひ さ 子……………五頁
長編小説 兼ちやん……………岡	田 美 津……………五頁
自由遊び……………ふ	じ の 譯……………六頁







園雅幼立官の初當立創



明 治 五 十 年 幼 稚 園 兒





號二第 育教の兒幼 卷六十二第

月二年五十正大

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

# 本邦に於ける幼稚園教育史

堀 七 藏

## 一、女子教育の嚆矢

廣く世局の進運に鑑み女子教育の忽にすべからざるを察し、明治七年一月文部少輔田中不二麿氏は女子師範學校設置の必要を具して大政大臣の裁可を乞はれました。それで文部卿は明治七年三月十三日神田宮本町八番地（後に本郷區湯島三丁目二十四番地と變更せられた）に東京女子師範學校が創立せられました。これが現東京女子高等師範學校の起源であります。そして明治八年二月二日 皇后陛下には東京女子師範學校の設立を嘉し給ひ御内庫金五千圓を御下賜になり、また同年十一月二十九日校舎新築成り開校式を擧げた日特に

皇后陛下には東京女子師範學校に行啓あらせられました。そして特に令旨を賜つたのであります。

女子教育ノ根抵ヲ培益センガ爲メ去年此校ヲ設置有ントスルヲ聞キ嘉尙ニ堪ヘズ 今經營既ニ成リ爰ニ開業ノ典ヲ擧ク 庶幾クハ自今此校ノ旺盛ニ赴キ遂ニ女教ノ美果ヲシテ全國ニ蕃結スルヲ觀ン事ヲ

更に明治九年二月十五日 皇后陛下には御詠を賜はりました。それは奉じて東京女子高等師範學校の校歌となり生徒兒童幼兒等が、式毎に歌ふところとなつてゐます。

御詠

みかゝすは玉もかゝみもなにかせん

學ひの道もかくこそ有けれ

## 二、官立幼稚園の設定

明治八年九月十五日 幼稚園開設の議が決定せられ同九年六月二日保育の方法及び建築の設計が定められ、同十一月十六日開園せられたものであります。従つて眞に幼稚園が開始せられたのが明治九年十一月で東京女子師範學校開校よりも約一ヶ年遅れてゐる譯であります。當時は獨逸人を招聘して保育の方法を講究したもので純粹にフレーベル氏の範に従つたものであります。兎に角この官立幼稚園は東京女子師範學校と併置せられそれ／＼獨立してゐたものであります。後に附屬幼稚園として經營管理せられるに至つたものであると申します。

明治十年十一月時の 皇太后陛下 皇后陛下が特にこの官立幼稚園に行啓遊ばされまして 令詞を賜りました。

## 皇太后宮令詞

曩ニ此園ノ設アルヲ聞キ今其様ヲ見ルニ幼稚ノ訓育稍宜ニ適シタルコトヲ知り尙倍訓育ノ力ヲ竭シ  
幼稚ヲシテ身ヲ保チ智ヲ増サシメンコトヲ望ム

## 皇太后令詞

人ノ身ヲ保チ智ヲ増サンハ稚キ時ノ育方ニアレバ此園ノ業モ最モ難カルベキヲ今稚キ者共ノ狀ヲ觀  
ルニ其身ノ健ニシテ其智ノ開ケ行カン効マテ目ノアタリニ知ラレタルハ誠ニ喜ハシキ事ナリ 尙務  
メテ此園ノ育方ヲ普ク敷キナハ人々ヲシテ皆洪福アランコト誰カ疑フベキ

右の令詞に對し當時の東京女子師範學校攝理中村正直氏は左の如き答詞を述べて居られます。

開園以來日久シカラズト雖モ幼稚教育ノ稍宜ニ適スルハ保母ノ力ニ由レリ 今ヤ兩宮臨御アリテ御  
詞ヲ辱フス 此事後日ノ勤勉トナリ此園幼稚育方ノ益々進歩スルニ至ラバ臣等與リテ餘榮アリ

## 三。創立當初の幼稚園規則

幼稚園は學齡未滿の幼兒をして天賦の知覺を開達し固有の心思を改發し身體の健全を滋補し實際の  
情誼を曉知し善良の言行に慣熟せしむる所とす。これが幼稚園保育の要旨でありました。今日より考  
へると中々六ヶしい言葉を使つたものありませう。

一、學年及業日

學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル之ヲ二期ニ分チ第一期ハ九月十一日ヨリ翌年十二月二十日ニ至リ第二期ハ二月二十一日ヨリ九月十日ニ致ル。

休業日ヲ定メテ左ノ如シ

日曜日 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭 天長節 新嘗祭

年末休業日(十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マデ) 冬期休業(二月十六日ヨリ同月二十日マデ)

夏季休業(七月十一日ヨリ九月十日マデ)

二、在園年限

滿六歳マデトス 但シ事情ニ由リテハ滿六歳以上ノモノト雖モ猶モ在園セシムルコトアルベシ

三、保育科目

第一 物品科

日用ノ器物即チ椅子・机或ハ禽獸・花草等ニ就キ其性質或ハ形狀等ヲ示メス

第二 美麗科

美麗トシテ好愛スル物、即チ彩色等ヲ示メス

### 第三 知識科

観玩ニ由ツテ知識ヲ開ク 即チ立方體ハ幾個ノ端線、平面、幾個ノ角ヨリ成リ其形ハ如何ナル  
カ等ヲ示メス

右三科包有スル所ノ子目左ノ如シ

- 一、五彩球の遊ビ
- 一、三形物ノ理解
- 一、貝ノ遊ビ
- 一、鑽ノ連接
- 一、形體ノ積ミ方
- 一、形體ノ置キ方
- 一、木箸ノ置キ方
- 一、環ノ置キ方
- 一、剪紙
- 一、剪紙貼付
- 一、針畫
- 一、縫紙
- 一、圖畫
- 一、織紙
- 一、疊紙
- 一、木箸細工
- 一、粘土細工
- 一、木片ノ組ミ方
- 一、紙片ノ組ミ方
- 一、計數
- 一、博物理解
- 一、唱歌
- 一、説話
- 一、體操
- 一、遊嬉

官立幼稚園設立當時は關信三氏が監事でありましたが後神律專三郎氏監事となり、保姆には松野くら女、近藤濱女、横川梅女、開誘室手傳山田りせ女、村井政女でありました。また明治九年六月建築

した幼稚園は建坪二百二十五坪であつたと申します。

### 三、保姆練習科

東京女子師範學校に於て幼稚園を設置せられると地方に於ても亦幼稚教育の必要を認め本校附屬幼稚園に模倣して次第に之が開設をなすやうになつたのであります。しかし保姆養成の機關が未だ備つてゐなかつたので東京女子師範學校に於ては止むを得ず地方の請求に應じ保姆見習なるものを置き之に必要な教科を與へ僅にその供給を充したものであります。しかし時勢の趨向は到底かゝる小規模の設備に甘することが出来なくなつたので明治十一年六月二十七日を以て保姆練習科を設置したのであります。その規則の概要は左の通りであります。

保姆練習科ノ修業年限ハ一ケ年トス 之ヲ前後二期ニ分ツ ソノ學科及程度ハ左ノ如シ

學科	前期	時間數	學科	後期	時數
教育學	其大意ヲ口授シ其要義ハ生徒ヲシテ手記セシム。	二	修身學	其大意ヲ口授シ其要義ハ生徒ヲシテ手記セシム。	二
物理學並 動植物學	其大意ヲ口授シ或ハ實物經驗ヲ以テ之ヲ示シ生徒ヲシテ其概略ヲ解了セシム。	二	人體論	口授或ハ問答法ニヨリテ人體解剖ノ大意生理ノ概則及養生ノ法ヲ理解セシム。	二
幾何學	平面幾何ノ大意ヲ口授シ或ハ之ヲ問答ス。	一	幾何學	立體幾何ノ大意ヲ口授シ或ハ之ヲ問答ス。	一
圖畫初步	幼稚園法ノ縱橫線ヨリ始め略諸物體ノ形狀ヲ模寫スルノ法ヲ知ラシム。	一	古今小説	幼稚園適當ノ小説ヲ記憶セシム且ツソノ話法ヲ練習セシム。	一

園制大意

幼稚園記及ビ其附録ニ  
就イテ口授ス

布列別傳

當分原書ニ就テ口授シ  
生徒ヲシテ手記セシム

音樂

唱歌遊戯ヲ授ク

一

音樂

唱歌遊戯ヲ授ク

二

恩物  
利用法

二十恩物ノ内前十號ノ用法  
ヲ授ケ殊ニ製作品ノ貯藏ス  
ベキモノアルトハ検査ノ上  
縦覽室ニ陳列スベシ

六

恩物  
利用法

授業法ハ前期ト同ジ

六

體操

一

體操

一

實地保育

六

實地保育

六

入學資格ハ(一)年齢 大約二十歳以上四十歳以下ノ者、(二)性行善良ナル者、(三)體質健全ノ者ニ  
テ種痘又ハ天然痘ヲ經タルモノタルコト、(四)學力ハ普通ノ書ヲ解シ略算術ヲ學ビ得タルモノ  
而して入學試験の上合格したるものは直に入學を許可したのであります。保姆練習科設置當初生徒  
を募集せしに僅々一兩名に過ぎず、是れ畢竟學資を給與せざると入學試験科目の高尙に過ぐるとに基  
くものとなし入學試験科目を較々容易にし學資を給與することとなし明治十一年十月三十一日給費生  
を置いたのであります。そして生徒は凡て通學せしめ、學資は自辨とす。

別但に給費生五人を置き一人一ヶ月五圓以下を給する事になしたのであります。それで給費生五名  
自費生六名計十一名で授業を開始した。この自費生の内大阪府より府費を以て幼稚園保姆見習のため  
入校したものが二人ありました、而してこの二人が後に大阪に歸り幼稚園の元祖となり大に活動した  
ものであります。しかし明治十三年七月東京女子師範學校は大に學則を改め保姆練習科を廢止した





## きびがら細工（其四）

東京女高師訓導 山 形 寛

### 六、彫刻的意味を加味した教材

きびがらを單に棒状のまゝ用ひて構成するだけでは、未だその長所を充分に發揮せしめおぼせたものとは云へない。棒状のまゝの構成に於ても、豆細工に勝れる點が多々あるけれども、しかもその多くは豆細工に於ても試み得るものである。然るに茲に説明せんとするものは殆ど豆細工に於ては企て得ないものであるばかりでなく、他の多くの細工に於ても、或は構成の容易なる點に於て、或はその出來たものの持つ氣分の點に於て同一の

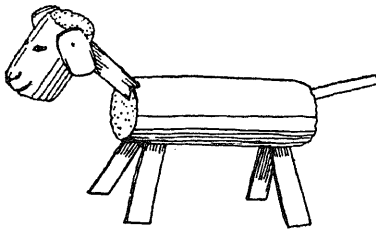
効果を擧げ難いものである。

そこで彫刻的意味を加味したとは如何なることを意味するかと云へば、きびがらを單にその自然に出來て居る棒状のまゝを用ふるに止まらないで、或はその一部分をむしり取つたり、切り取つたり、壓縮したり、曲けたりして諸種の形態を模倣するものを指すのである。それが如何に面白味が多く又子供に喜ばれるものなるかは、くだくしき理窟を云はないで、實例で示すことにしやう。

#### 一、犬

この教材は殆ど棒状のままのきびがらを用いたもので、彫刻的の意味は少いけれども、後に述べる教材との關係上茲に入れたのである。その工作法は次の如くにする。

(1) 成るべく太いきびがらで、長さ約六センチに切つたもの一本と、長さ約二センチ半に切つたもの一本とを作る。



いぬ

圖 二 十 第

(2) 短い方のきびがらの兩方の切口の角を少し

く指頭で押しして丸くする。これは頭になる材料である。

(3) 細いきびがらを長さ一センチ弱に切り、之を縦に二つに割り、且つ之を押しつぶして平たくしてから、四隅を切つて、ほぼ楕圓形とする。これは耳になる材料である。

(4) 頭部に耳を圖に示す如く籤で結合する。

(5) 長さ約三センチ半に切つた、やゝ幅の広い皮、圖の如く頭部と胴とを結合する。この頭、首、胴のつけ工合の角度如何によつて犬らしくなつたりならなかつたりもするし、又犬の如何なる場合の姿勢にもなるのであるから注意を要する。

(6) やゝ幅の広い皮を長さ約五センチに切つたもの四本を作り、之を胴に刺して四肢を作る。四肢を作つたならば立てて見て、掘りのよくなる様に、又犬らしい感じの出る長さにする爲に、先端を切り揃へる。

(7) 細く割つた皮を長さ約三センチに切つたものを、胴の端に圖の如く刺して尾を作る。

(8) 眼、鼻、口等を頭部に畫いて仕上げる。

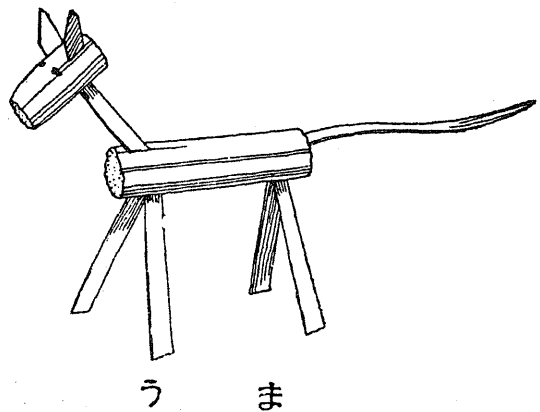
以上で犬の工作を終るのであるが、この工作に於て注意すべきは、胴、首、頭、四肢の大きさの割合と、恰好とで犬らしくもなり、然らずもなるのであるから、その點は充分の注意を要する。又本工作に於て耳の工作が困難であるならば單に皮を短く切つたものを刺して作つてもよい。

## 二、馬

第十三圖に示した馬の工作は、前節の犬の工作法と殆ど同様であるから別に説明を要しないと思ふが、やゝ異なつた點を述べれば、次の諸點にある。

(1) 胴の長さや太さは犬の場合と殆ど同様でよいが首及び四肢を犬よりもすつと長くし、且つ首

第 十 三 圖



を少しくあほむき加減につけること。

(2) 頭部もやゝ長目に作り、且つ耳はやゝ幅の廣い皮を長さ約一センチ半位に切つたものを圖の如く刺してから、端を斜に切り落し作ること。

(3) 尾は皮を急にはがし取つて一端が漸次うす

くなつたものを適當の長さに切つて胴に刺し、然る後、指先で曲げて圖の如く曲線形にすること。そして尾は幾分長い目に作つた方が勢よく見えること。

### 三、曲馬

きよくば

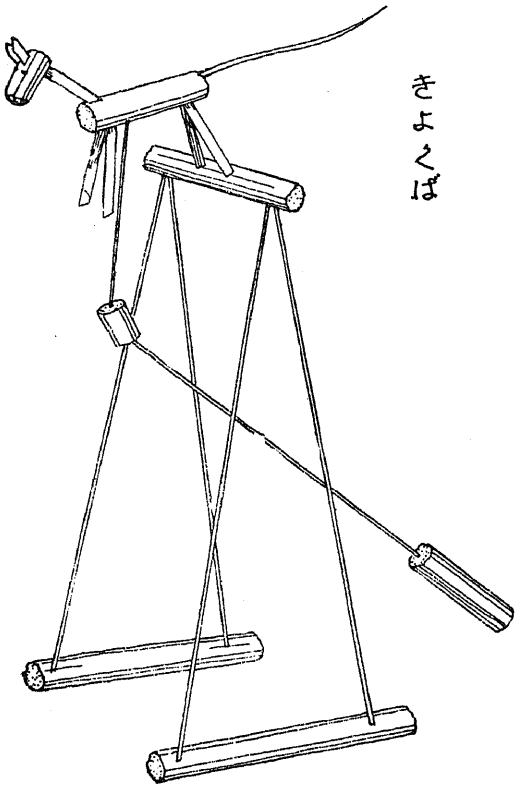


圖 四 十 第

第十四圖は重心を利用した一種の彌治郎兵衛である。之を作るには、次の如くする。

- (1) 前課に説明したものと同様な馬を作る。
- (2) 長さ約十センチのきびがら一本と、長さ約二十センチのきびがら二本と、成る可く太い籤を長さ約四十センチに切つたもの四本とで、第十四

圖に示す如き臺を作る。この臺には下方の土臺に  
なる二本のきびがらの間に他のきびがら又は籤を  
入れて兩者を結合すれば一層よくなるであらう。

(3) 長さ約十センチの籤一本、長さ約二十セン  
チの籤一本、長さ約一センチ半のきびがら一個、長  
さ約八センチのきびがら一本とを作り、之を第十  
四圖に示す如き關係に接合してから、第一工程で  
作つた馬の腹に刺す。この工作に於て各材料の角  
度は甚だ重要な關係を持つものであるから、豫め  
標本を示して角度の目測をやらせるがよい。

(4) 第三工程で作つた、馬の腹部に錘をつけた  
ものを、第二工程で作つた臺の上に圖の如くのせ  
て見て、馬が安定に保たれるや否を檢し、若し前  
方に傾き過ぎて落ちる様子ならば、錘の先端につ  
けたきびがらを少しく切り落して調節したり、二  
本の籤の角度を調節したりして修正するがよい。

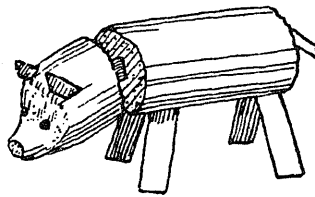
以上の工作が出来れば、錘を少しく揺り動か

して見るがよい。さうすれば恰も馬が踊つて居る  
様になるものである。

この工作は比較的容易であつて且つ子供等の喜  
ぶものである。

#### 四、豚

第 十 五 圖



ぶ た

第十五圖はきびがらで作つた豚を示したもので  
ある。その工作法は次の如くである。

(1) 直徑一センチ半位のきびがらを、長さ約三

センチに切る。この時一端は少しく斜にして置くがよい。この材料は胴になるものである。

(2) 同じ直径のきびがらを、長さ約二センチに切る。これも一端は少しく斜に切つて置くがよい。この材料は頭になるものである。

(3) 第二工程で作つた材料の、斜でなく切つた方の端から、全長の約三分の一位の所に切込をつけ直径の約三分の二だけを少しく斜に缺きとる。

この時一氣に三分の二の切込をつける時は、割れたり、切口が拙くなつたりすることがあるから、少しづつ、數回に切り取るがよい。

(4) 切りとりが出来たならば指頭で角を丸めたり、口の所の突出して居る所を作つたりして顔の形を作り、第十五圖に示す如く小さな皮で作つた耳をつけ、眼を畫き込んだりして頭部を作り上げる。

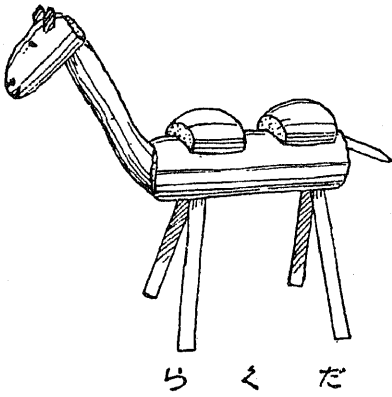
(5) 頭部と胴とを結合し、四肢及び尾を圖の如

くつけて仕上げる。

豚は丈がひくく、顔がしやくんで居るのが形の上の特長であるから、その點を表はしさへすれば豚らしくなるものである。故に肢を作る時の如きは、初めに少しく長目に作つて置いて、少しづつ、切りつめて行つては豚らしく見えるや否を見乍ら作るがよい。

### 五、らくだ

第十圖



らくだ

第十六圖の如きらくだを作るには、次の如くする。

(1) 最も太いきびがらを長さ約六センチに切つたもの一本(胴)中位の太さのきびがらを、長さ約二センチ半に切つたもの一本(頭)最も細いきびがらを長さ約五センチに切つたもの一本(首)とを作る。

(2) 頭になる材料の兩端の稜を指頭で押して丸味をつけて頭部の形を作り、且つ作つた耳をつけ眼、鼻、口を畫き加へる。

(3) 首になる材料は四方から指で摘んで少しく細くし且つ第十六圖に示す如く幾分曲線的にする

(4) 胴の部分の兩端の稜を押し少しく丸味をつけ、且つ首をとりつける所は凹狀に押し窪めて置く。

(5) 頭、首、胴を組合せて圖の如く接合し、且つ皮で作つた四肢をつける。四肢の長さは六センチ位にするがよい。

部位にするがよい。

(6) 太いきびがらを長さ約一センチに切つたもの二個を作り、各の材料の三分の一位を割りとり、且つ四隅を切つたり指でひねつたりして、まんぢう形となし、三を胴の前後に圖の如く接合して二個のこぶを作る。

(7) 最後に尾をつけ、全體の形を修正して仕上げらる。

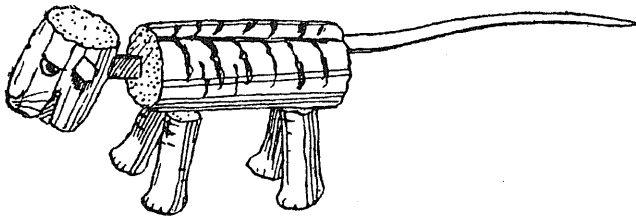
この工作に於て主要なる點は首とこぶとの二點である、馬、鹿、きりん等の如き比較的首の長い動物を作るには、本工作の如くするがよい。

## 六、虎

第十七圖は虎を示したものであるが、これが製作に於て、これ迄に述べて來た他の動物と異なる所は、肢の作り方と口の作り方との二點である。他の諸點は圖の如き恰好に作ればよい。左に工作

上の主なる點に就て説明しやう。

(1) 肢を作るには、最も細いきびがらを長さ二センチ半位に切り、之を四方から壓して更に細く



とら

し、下方の端だけを掌を表はすために少しく太目にして置く。斯かる構造の肢は、後で恰好をとるために下端を切り捨ることが出来ないから長過ぎた場合には上端で切りつめなければならぬ。そのためには一度胴に接合はしてしまつてからでは拙いから豫め切り揃へて置かなければならない。而してこの肢の長さは胴の大きさに従ふべきものであるから、はつきり何センチ何ミリと決定して置くことは出来ないが明に直徑約一センチ位のきびがらを、長さ約五センチ位に切つたものを用ひたならば肢は約二センチ半位でよい。

(2) 頭部は直徑約一センチ半位のを長さ約二センチ半位に切つたもので作ればよいのであるが、第十七圖に示したものの如き口を作るには、ナイフを用ひて斜の切り込を二つつけて口の部分だけを缺きとるのである。この工作は缺ではよく出来難いから、刃の薄いナイフを用ひなければなら



ない。若し口を圖の如くしないで、これ迄に説明したものゝ如く單に畫き込むだけにすればナイフはなくてもよい。

(3) 尾は大體馬の尾に準じて作ればよい。

(4) 全體の組立が出来たならば胴や肢等に、虎特有のあの縞をつけるがよい。この縞のあるなしは虎の感じを出す上に甚だ大切である。

## 七、象

第十八圖はきびがらの象である。之を作るは次の如くする。

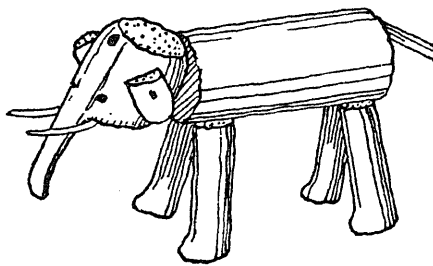
(1) 直径の最も大きいきびがらを長さ四センチ位に切つたもので胴を作る。

(2) 頭部を作るには、同じ太さのきびがらを、長さ約三センチに切り、中央からやや斜に直径の約三分の二の切込をつけ、更に縦に缺を入れてその部分だけを切り去り、尙ほ残つた部分の左右か

らも缺を入れて少しく切り去つて、鼻の部分の全體の形を作る。

(3) 前工程で作つたもの、頭の上端を指で摘んで幾分丸味を持たせ鼻の形を指で摘んでととのへる。而して鼻の先端は第十八圖の如く少しく内側

第十八圖



ざう

に曲げて置くがよい。

(4) 直径一センチ以内のきびがらを、長さ一セ

ンチ弱に切り、之を縦に二分したもので耳を作る  
その作り方は犬の耳の工作に準ずればよい。

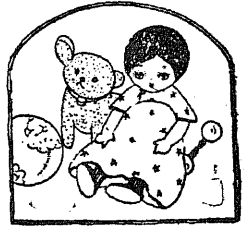
(5) 頭部に耳をつけ且つ、極めて細く割つた皮  
で牙を作つて圖の如くつける。

(6) 四肢は細いきびがらを長さ約二センチに切  
り、之を壓し縮めて圖の如く作る。その工作法は  
虎の肢の工作法に準ずればよい。

(7) 以上の諸部分が出来たならば、頭、胴、四  
肢を結合し、且つ小さな皮で尾を作つて、圖の如  
き形となし、眼を畫き添へて完成する。  
本工作に於て主要な點は、鼻と牙との作り方と  
胴、頭のつけ工合との二點であるから、この點は  
注意して授けるがよい。

## ○ぬり系

日本幼稚園協會編フーベル館發行のぬり系は近日中に發賣せられる筈であります。幼兒の好むいろ／＼の線畫を與へてこれに色鉛筆又はクレオンを使用して色彩を與へることは教育的價値の甚だ大なる一作業であります。このぬり系は東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て研究した材料を集めて二冊をなし一ヶ年に一冊使用するやうに配當してあります。尙ほ餘白を設けて使用者がいろ／＼の繪を附加したりまた自由畫、切紙等を一冊にまとめ置く便宜を、考慮したのであります。紙数は二十枚で定價は金參拾錢であります。



# 英ちゃん物語

鹿の子

## 一、名前のいはれ

英ちゃん ホントウの名は英三と申します。大正十年十月廿六日生れで、今年數へ年の六つになり三男であります。名はよび易く書き易いといふのが父親が子供の名前をつける第一條件だ想であります。しかしこの父親には偶然か豫定か出生順を表はす事が條件になつてゐるのであります。そして出生年中に於ける國家社會又は一家の記念とする意味をも象徴するのだ想であります。それで此父親は大正二年に生れた長男には正一とつけ大正五年に生れた次男には 皇后陛下行啓の翌日産

れた所から啓二とつけ、大正七年十二月生れの長女には世界の平和を記念するといふので和子とつけたのであります。其筆法で英三といふ名前がつけられたのでせう。それは大正十年三月三日には皇太子殿下が英國に御留學になりその年九月三日に目出たく御歸朝遊ばされた事を御祝賀申し上げまた記念する精神で英三、英明なる殿下が英國に御留學遊され三の日に御出發御歸朝と三男とを重ねた三であるといふのだ想であります。かく父親ではよく考へた名稱でありませうがふだんは英三と呼ばれず自分でも英ちゃんて通つてゐます。英

ばんくといへば、御機嫌が悪く英坊主といへば返事いたしません。四歳の暮兩親と共に京阪に旅行したときばんくと呼ばれたのが慣れない爲にうれしくないのだ想です。それでばんくも坊主も氣に入らずいつも英ちやんで威張つてゐます。

## 二、幼稚園

「英ちやん、幼稚園へ行きたいの」と問へば

「幼稚園へ行きたい」と答へます。「どうして幼稚園へ行きたいの」と重ねて尋ねると「どうしてでも」とすましてゐます。「どこの幼稚園へ行くの」と尋ねますと只「幼稚園行くの」とすましてゐます。

英ちやんには幼稚園がたくさんあると思はれませんが、只東京女子高等師範學校附屬幼稚園を二回許り見たばかりですから他にも幼稚園があることなどは考へてゐません。幼稚園へ行きたいといふ事も附屬幼稚園を見て來てからのことでもあります。

「幼稚園つてどんなところ」と尋ねてもお茶の水の幼稚園」と答へる位であります。幼稚園の觀念も自分の見たお茶の水の幼稚園しか考へに浮ばないのでです。それで幼稚園へ行きたいのは幼稚園には自分と似寄りの子供が澤山ゐて遊ぶことが出来る位に考へてゐるのでありませう。「英ちやん幼稚園へ行つて何をするの」といつても、「にやもく」といつて笑つてゐる所を見ますと幼稚園生活が分つての話でもありません。彼は兄弟が小學校に出かけた後に母親の私と女中を相手に家庭内で遊ぶのであることが無聊でならないのでせう。

玩具をいちつて遊ぶ事も庭に出てトンボやハチを相手にし、ハナや葉を材料としての獨り遊びも好奇心を満足するには相違ありません、生物無生物の見分もなく皆な友達である事で満足が出来なくなつたものでせう。群居本能が現はれ漂浪本能が現はれたのが四歳の終り頃から、姉が小學校

に入學するやうになり遊び仲間がなくなりお隣りには同年齡のお子供さんがゐなくなつてからは著しく明白になつて來ました。私が氣分が悪くて一寸横になつて居りますと今まで遊んでゐた手を止めて枕元に來て「お母さん眠つてはいやよ」といつて私の眼を開けるのであります。若し女中が用足しに外出すると「英ちやんも行つていゝ？」と必ず尋ねます。そして喜んで女中について外出いたします。外へ出たくて仕方がないと見えます。生れて一度もたいした病氣をしたことがないのでありますから元氣に満ち／＼てゐるので外出を好むのも自然でありませう。それで顔は眞黒になつて生き／＼してゐます。一度幼稚園を見てから行きたくて仕方がないがまた年が足りないから行かないと申しますと「イクツになると行けるか」と尋ねます「六ツになれば幼稚園へ行ける」と申すと「嬉しいな」といつて喜んでゐます。「イクツ六つに

なるの早く幼稚園に行きたいな」とお正月を待ちましたのも幼稚園に行けるといふ希望が一つ加つてゐるのであります。六つになるとお正月からでも幼稚園に行けるものゝやうに考へて楽しんで居りました、しかしお正月が來て六つになつてもまだ幼稚園に行けないのでこの頃は甚だ不平であります子供には子供連れの遊びが必要であり子供が子供の生活をなすために幼稚園が非常に必要となる事をこの頃は私は痛切に考へさせられてゐます。幼稚園へ行かなくとも年寄りがあるから大丈夫であること考へることも附添の女中があるから幼稚園へやる必要がないといふのも本當に子供の生活を考へないからの誤解であることがしみつゝ分りまゐります。私などは英ちやんのために成るべく子供となつて遊んでやつてゐる積りでありますがそれほどうしてもこしらへ事になると見えます。子供は子供同志遊ばねば本當の生活が出來ますまい。

子供の生活は大人相手では出来るものでありません。老人や女中では子供に不満足なのは勿論です。老人は體のきかない點は子供に似てゐてもそれはどこまでも大人でありませうし、女中は主人の機嫌をとるために子供の當然の活動を束縛することが多いからで子供にはどうしても本當の

遊び相手にはならないのでありませう。極く近寄つた年齢の子供が集つて自由に遊ぶことの出来る幼稚園が子供の天國であり樂園であることがこの頃の英ちゃん達の生活を見てつくづく考へさせられた教へられた私の感想であります。

## ○あくびの効

近色來々の健康法が宣傳されるが、米國の「ドクトル」の提唱する欠伸利用の健康法は餘り知られてゐない。例へば、猫や犬が目なまますと必ず欠伸や伸びをするのは誰も知つてゐる。

欠伸や伸びは、つまり停滞した血管を擴張して血行をよくすることである。欠伸は實に肺臓における伸びであり酸素の缺乏を補ふの効果を與へ、筋肉の弛緩と呼吸器系の調節に資するところが多い。

「ドクトル」の提唱する欠伸健康法といふのは、先づ仰臥してゐて莞爾と笑むことに始まり、次に數回の深呼吸をして腕を出来るだけ下方へ伸べ、肺臓の底から聲を張りひろげ深呼吸をして腕と脚を交互に伸べ掌で胃を摩擦し體を前後にゆすつて首を前後にゆるく振るのである。これは欠伸を分解した結果に外ならない。

# 維納市にける幼稚園に就いて

在ウキン 大阪自動幼稚園主事 小山 秀子

歐米に於ける幼稚園や子供に關する諸問題に就いて、そと、覗いて見たいと云ふ希望の許にやつて來たいの一番が此ウキンです。敗戦國の事として萬事疲弊はして居るが教育事業や社會事業はさすがに古い都だけあつて馬鹿にはなりません。市内五十餘ヶ所の市立十四五の私立幼稚園を持つて居て市廳に特に子供課を置き市立學校總務理學博士フイリツプ、フランコウスキー氏を其課長として据えてある位です。其上、氏は又此の市に特設してある保姆養成にも教鞭を取つて居て頗る斯道には明い見識と確固たる主義を持つて居られる様です。私は日本公使館から特に頼んで貰つたおかげ

で珍客としてわざわざ市内目貫の幼稚園の案内を受けたのみならず現在の市經營の幼稚園に關する意見と實行の有様を纏めた氏の著書の原稿を未だ發行前なるにもかゝはらず手輕に外國人である私に貸し與へて呉られました。丁度良い人を得て其を譯し得ましたので會員方の御參考にもと送ります。但し此市には非常にセムシ病が多いと云ふ事を前以て申し上げて置きます」。

## ウキン市幼稚園

ウキンの子供達は現在非常に窮乏の極に達して居る、激烈な痛々しい生存競争や歐洲大戦の結果がしからしめたのであるか其を擁護してやる事は

あらゆる他の社會擁護の中心點で益々幼稚園の増設を必要とするわけである。

義務教育の年齢に達すれば全部公立の小學校に入學させるが其と同様に未だ、これに達しない幼兒を残りなく幼稚園に收容する事は正に適當の要求である。併しこれを遺憾なく充實させると云ふ事は多大の經費と勞力を必要とするが社會の幸福を増進さすと云ふ點に於て深く考へて見ねばならぬ事である。

幼兒を幼稚園に入れると云ふは唯此を保護するお守りするだけでなく進んで將來の爲に善良な教育を施すのが保育の最後の目的で無ればならぬ。尙且小學校の豫備教育でなく寧ろ幼兒其者の持つて居る個性を啓發し指導する即ち其幼兒は技術的に美術的に又社會的に如何なる趣味、才能を持つて居るかと云ふ事を探究し其長する所に向つて自然に進まさせねばならぬ。幼兒の藝術的能力や幼兒

の心中に潜んでゐる社會的本能を觀察し得る機會を持つて居る人は幼稚園が眞に子供の保育機關であり幼兒を適當に養育する場所である事を了解する事が出来るであらう。故に成るべく幼稚園の完成を期すると云ふ事はこの意味からでも公共團體たる一般市民の義務である。

#### 一、幼稚園問題の根本義

此市の公立幼稚園は少年監督課に屬し教育上の指導は教育課のカーネル博士が力を入れて居る又幼稚園側から選抜された委員と園醫等が會合して實際問題を討論し實行に移る。これを衛生學上社會政策上、教育學上の三から論じる。

#### A 幼稚園の衛生的社會政策上の意義

幼い子供に對し七面倒な監督をする事は或時代までは悪い事に思はれて居た、併し乳兒の死亡率の大である事を恐れ尙小學校時代の悪習慣や體質の不良は卒業後社會に於ける勞働能力を減じ延い



ては國民經濟に其影響を及ぼす事を恐れると共に二歳より六歳までの幼児にもより以上の注意を拂はねばならぬ、數字の示す所に依つても死亡率は小學校時代に倍し病氣に罹り易い事をも明に示して居る。其中で特に癩瘵病と結核病について云へば大てい幼児時代に最其數を多くして居る、セムシ病の如きは幼児五萬人中に最重きもの五千人、中庸なもの四千人、軽いものを加へれば勞働者大幼稚園で調べると其八十%は此に變形すると確定する事が出来る。又結核病はこれも下級生活者の幼児ではあるが其五一%は同病菌による傳染を受けて居る。此等は必ず「セムシ」に又結核病に全部なると云ふのではないが幼児時代に其萌芽を發して居ると考へねばならぬ。

さればこれを撲滅して豫防するには量と質に於て充分なる營養を與へ合理的に幼児を保育するを最必要とする所で、吾人が幼稚園業をするについ

て重大な位置を占めて居るのである。委敷云へば。

一、幼児の母が其職業に安んずる爲代りに保育をしてやる。

二、母が子供を保育する知識を缺いて居るから。

三、合理的に保育する爲に。

此等の施設しをして救濟せんとするは一つの公共團の義務であり又目的であらねばならぬ。其方法については拘束的保護法「家庭から幼児を離して幼稚園に伴ふ」開放的保護法「幼児は家庭に居らしめて出張して不正を矯正する」、半拘束保護法「晝間幼稚園に伴ひ夕家庭に歸らす」、現今ではこの半拘束保護法を幼稚園に於て重に實行し、ウキンでは國民幼稚園と名づけて居る。

#### B、幼稚園の教育的意義

人類の精神上並に習慣上の發達が如何に幼児の心理に影響するか、殊に都市の幼児は其心意に及ぼす結果の大なるかは吾人の知る所である。故に

之を適當に指導し開發して行くには専門的の知識を持つた指導者が必要である。又家庭で我儘をすと云ふ事は多勢の子供を知らぬからで社會的觀念に目醒めぬからである。此意味から幼稚園は學校教師的の經營法は絶対に排除せねばならぬ。即ち幼稚園は小學校ではない幼兒の住家でなくてはならぬ。其住家で幼兒の精神上並に肉體上の糧が意のままに與へられ次第に進歩せしめ且社會的觀念を目醒め發達せしめて行くのが幼稚園としての主要な目的である。

## 二、公共幼稚園は如何なる事をするか

### (A) 公共幼稚園勤務規則

(イ) 國民幼稚園 (朝七時ヨリ 夕六時まで)

(ロ) 普通幼稚園 (朝八時より 十二時まで)

但國民普通共に同じ幼稚園にありて親の財力に依つて全く保育料を支拂はぬもの、半額又は三分の一支拂ひのもの等の別あり。普通幼稚園兒は貧

困ならざる幼兒にして食事も給せられが同組中にあつても食事をせず十二時に帰宅し一週三十四錢を支拂ふ

この貧富の差は區役所にて取調べらる

### 日課 (國民幼稚園)

- 1、午前七時働きに行く母親子供を連して來る
  - 2、幼兒集會場で遊ぶ
  - 3、保育 (1の組は二歳から三歳、2の組は三歳から五歳、3の組は五歳から六歳)
  - 4、十一時晝食
  - 5、十二時より二時まで靜止睡眠
  - 6、二時より五時まで保育
  - 7、五時より集會場にて母親をまつ
- (B) ウェン幼稚園の週案の一例
- イ年長組

- 1 點檢、2 數へ歌、3 言語練習 (冬の日に) 4 茶話
- (子供に云はす) 5、歌汽車が來る 6、話 (約束)

7 粘土細工、8 製作(雪球)、9 (雪達摩)、10 建築(家とベット) 11 積木遊、12 遊戯(行進曲)

保育に對する保母の態度は自由意志により一週間の計畫を週の始に立てる

尙子供は野外に遊ばすを本意とするも雨天等やむを得ざる時は室内に入る

(C) 食事、休息、醫學的施設

(イ) 食事は朝、晝、四時の三回に與へ量を少なく營養價の大なるものを撰ぶ尙幼兒の一日の主要カロリーの $\frac{2}{3}$ を園内にて與へ、「家よりは一切食物を持參せしめず食物献立の一例として

朝 晝 四時

月曜、牛乳コ、ア、割麥のかゆ、牛乳とパン  
火曜、牛乳コ、ア、シチュー、パン  
水曜、牛乳コ、ア、トマトかゆ、バタとパン  
木曜、牛乳コ、ア、焼芋かゆ、ビスケット  
金曜、牛乳コ、ア、焼豆かゆ、キクパン

土曜、牛乳コ、ア、肉のかゆ、パン

( ) 休息

十二時より二時まで會集場で眠らす、ベット上毛布並に溫度採光に充分注意する事

( ) 醫學的設備

- 1、公立醫診察四週に一度(弱い子は幾度でも)
- 2、健康表(營養狀態、内臟疾患の有無)
- 3、診察日は母親醫師に子供について相談す
- 4、母親來られざる時は保母注意す
- 5 時に弱き子を集め其季郊外へ連れ行き養生さす
- 6 醫師は幼稚園の衛生狀態を視察し保育の衛生的なるか否かを調べる義務と權利を有す

(D) 幼稚園勤務職員

イ園長一名(保母中より選り勤務時間一週三十六時間、内五時間乃至三時間は教育準備時間として勉強研究す

ロ保母、組數だけの數を置き給料初給六十圓三十

五年續勤すれば百二十圓となる

ロ小者、若干各雜用をなし月給五十五圓より、園長を除く外の者の勤務時間は午前七時より夕六時迄但し勉強時間一週五時間あり、休憩時間は午前午後とも三十分間宛（この時は二組を一組に合成し一保姆これを受け他は休む、又一保姆の受持つ幼児数は三十人以上四十人迄

(E)保姆教育

國立保姆教育所あり入學資格は國立女學校三年卒業程度入學後二ケ年修業す。これを教ふる人は中等學校教員資格者

(F)保姆の研究經過

一ケ月一度の質問日を持ち研究す。課目は

- 1 幼稚園衛生につき（醫者に）
- 2 保育に對する國民教育的價值（市廳へ）
- 3 モンテソリー組織に對する討論
- 4 モンテソリー組織

5 幼兒畫につき

6 祭と祭の研究につき

7 初年兒の取扱ひにつき

8 幼兒の體力につき

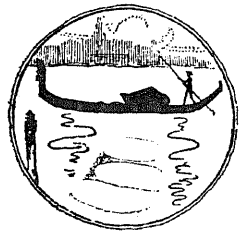
9 幼兒の遊戯につき

10 手工能力につき

其他一ケ月一度園長會議あり、市役所教育課員同席上種々討論し各幼稚園にて保育の試演をなし批評會に開く

三、半年に一組に與へる消耗品（市廳より）

- (1)ニキロ積木製箱付(2)同三角體箱付(3)同板木(4)十五キロ畫紙(5)鉛筆ケズリ(6)畫本五冊(7)白紙板一色板一(8)粘土三キロ(9)掛圖三枚(10)大木箱二(11)着色ドミノ三十(12)色紙一キロ(13)木製スキ十個(14)汽車五、皮製フットボー
- ルーゴム毬三(15)押車二、計量器三(16)水サシ一砂箱十



## 育 兒 叢 談 (八)

—〇、三四歳頃まで—

一番育てにくい。病氣には醫者が第一

文部省學校衛生課長北豐吉氏談として大正十四年十二月十六日東京朝日新聞に掲載  
せられたものである。

一體生物は動物ならば生れて日のたゝない間、植物ならば芽の出してから日の経たない間が育てるのに一番難かしいといふ事はたれしも知るところであるが人間もその通りで生れて一歳が育てるの骨が折れ、又三歳頃がむづかしい。それが過ぎるとやゝ楽になるが、七八歳になつてまた骨の折れる時期が来るそれを越ると余程育てやすくはなるが、十四五歳いはゆる春期發動期になると、また色々な病氣にかかりやすくなる。この時期になると他から育てるよりは、自分で自分をまもる事になるのである。あの昔から言ひ傳へる事である

が、大抵七八年を區切つて人間のからだには危険の時期が來るといふ事、即ち女の三十三歳、男の四十二歳といふのも、つまりこの年數の五周か六周かに近いとか、又は當るので、これも同じく注意を要する時期である。併し前にも言ふ通り、年頃になれば自分がそれ〴〵護る事が出来るけれどもこの以前においては全く親の擁護を要するので殊に三歳未滿は全く母の手に子供の注意が握られてゐる。この間の手當がよければ、決して人はその間に死ぬ事はないといつてもいゝ位である。それで畏れ多い事ではあるが、上つ方の御家庭を見

ると、この期間に亡くなられるやうな事がほとんどない。これによつて見ても、衛生に注意をするといふ事がいかに大切であるかゞわかるのである。よく問題になる事であるが、衛生をやかましくいふと子供が弱くなるといふ若い人はさう言はないで、發熱するとか、下痢するとか、やはり衛生の大切である事を唱へる。こゝに新舊思想の衝突があるのであるが、これは若い人の方が正しいのである。それから普通、衛生にやかましい家の子供はとかく弱くて、貧民等の子供は丈夫であるといふけれども、それは早計に言ふわけには行かない。實際において知識階級、上流社會の子供は、勞働階級、下層社會の子供等よりも弱い事實は多いけれども、それは生れながらの體質であつて、衛生と騒ぎまはるが爲に弱くなるのではないのである。それ故かういふ弱い子供を持つた上流社會の人は、ますます衛生に注意しなければならぬ

事實において下層社會の子供に死亡數が多く、人間のほとんど三分の一は五歳未滿で死ぬけれどもそのうちの大部分は下層の子供である。それで衛生をやかましくいふ事は、上下共に必要な、しなればならぬ事となるのである。世人は朝顔の苗を作りあるひは野菜の苗を作る事にいかに苦心と注意とを拂ふか。またそれがいかに難かしい事であるかを知つて居るが、人間の子供を育てるのに朝顔の苗や野菜の苗を作る程の注意と苦心が拂はれるかどうかまことに疑はしく思はれない。でもない。思へば人間を育て、ゆく事は遙に難かしい事なのである。之にはどうしたらいいかといふ事を考へたい。昔は自然に家庭において母親のする事を見習つてやり來つた時代もあるが、今學校では生理、衛生、家事といふやうなものを教へる。これらを基礎として、その任に當る人は更に自分の工夫を加へ實地に應用して行かなければならぬ

然るに學校において習つた事と家庭でする事とはほとんど没交渉になつてゆく例を見る事が少くないのである。これはまことに遺憾な事であつて、この様な事は、學校の教育者も注意し、未來の母たる學生達も注意し、また家庭においても學校で習つた事を活用するやうに指導しなければならぬものである。尙私は、この學校で習ふ課程以外に、育兒の講習會、講演會に行つて話をきくとか又はその道の人の意見をきくとか、新聞、雜誌、展覽會等において見るところを以て、母たる人の注意を養はなければならぬ。とにかく尊い一大國民の生命を預かつてゐる母なるものは何等育兒の知識なくしてこの大任に當る事はまことに寒心すべき事である、一番にすゝめ度い事であるが、第二に、これは私自身もよく經驗があるが、子供をもつて三四歳位までは絶えず熱が出たり、下痢をしたりする事がある。この時に醫者にかけるか

どうかと迷ふ事もあり、この位ならば醫者にかへずともと思ふ事があるが、之は大人を標準にするのであつて、子供は少しの場合でも生命にかへはる事が往々ある。私は三歳位までの間は少しの變化でも軽い病氣でも、直に醫者にかかる事を憲法とする様におすゝめする。無論時には早計過ぎると笑はれるかもしれないが、そんな事はかまはずに直に醫者にかけるやうにし度い。讀者の中にも思ひ當るものであらうが、もう半日早く醫者にかけたら、また、あの時療治をせずにはすぐ醫者にかけたら、死なずにすんだのといふ場合が澤山あらうと思ふ。子供は實に二時間三時間で取返しつかない事がある。よしんば軽い熱があつて、醫者にかへずにかけておいて治るものであつても、醫者にかへずにおけば二週間もかゝるのが、醫者にかけて二日で治る場合、生命はとりとめても、醫者にかへないため二週間も治らず、その子供は薄

弱になり榮養がおくれ、發育がおくれ、結局終生影響が及ぶといふ事が決して少くないのである。で、多くの人は可愛い、子供の爲だから、醫者にかける五圓や六圓の金を惜むでもなからう。そのひまを惜むのでもないであらう。結局之が等閑に付して注意を怠る結果であらうと思ふ。園丁や農夫が食物をとるひまをさへ惜んで苗を育てる事を思へば、可愛い子供の爲には五圓や六圓を惜まらず、忙しいひまを割いても、熱心に育児の任に當らなければならぬと思ふ。(談)

## ○子供と玩具

積木遊びを見れば

知識程度が知れる

子供に與へるおもちゃはどんなものがよいかなぞとさがすのは素人考へで、家庭にあるものは何

んでも子供のおもちやの材料になる。すべり臺のはりに張板を持出してシユーとすべる。その張板の布が張つてあらうが無からうが、おかまひなしでそこに子供の面白味がある。理窟づめにおもちやはゆかぬもので、理窟づめになると遊戯氣分がなくなる。遊戯的といふことには目的を持たぬもので、さうして氣の向くがまゝに活動するのでハッキリした目的を持つて努力すると遊戯でなく業務になる大人は毎日つらくも仕事をする、それは業務で小學校の仕事は遊戯と業務を取入れた作業の氣分のものである、そして家庭にある時代の子供には理窟づめにおもちやを與へてはならぬ。おもちやはある意味から研究の道具で子供の知識程度の發表的用具であるが、子供には慰安の意味で與へるのだ。日本の玩具の最も缺點だと思はれるのは子供の工夫を加へて發表するものつまり子供の創作力をたすけて行くものとほしい。とこ



ろが子供の工夫を加へるやうな玩具は賣れなくて人形でも何でも既製品が多く賣れる、それだけまだ母親が玩具に對する考へが發達してゐないのだ積み木にしても自由に積みにくいペンキの塗つたものが受けてゐる。色がぬつてあると積みあける形ちが制限され豫定された通り以外に面白く積まれぬから子供は早くあきが來るだから子供が工夫をして自由にどんな形ちにでも積まれるものを與へねばならぬ。まだ日本では玩具か子供の研究機關だといふ思想にとぼしい。積み木にしても男の子供は立體に積むクセがあるが、女の子供は平面にならべる天性を持つてゐる。それを女の子供に立體に積む事を教へると男の子供よりよほど立派に高く積みあげる。これ等の點を考察して子供の知識がどのくらゐ進んでゐるか、幼稚園時代にはよくわかるものだ。従つて子供が一つ積みあげるとに何十分を要するかを見るのが子供の研究問題

である。心の落ちつかぬ子供、發達しない知識の子供は、すぐあきるが、頭腦のよい子供、研究心の強い子供は積みあげるに長い時間を要するが最後まで完成する。積みあげるに長い時間を要する子供は知識の進んだ子供である。この點を觀察すればその子供が幼稚園から尋常小學へ進めるに早いかどうかを考慮するよい材料になる。これ等はおもちやの取扱ひを見て、その子供の發達状態を知るに有効な方法であると思ふ。

附記、東京日々新聞が岸邊福雄氏談として掲載せる所のものである。子供の玩具については家庭でも幼稚園でも餘程注意して研究すべきものであるがその一端を岸邊氏が述べられたもので參考とするに足ると思ふ（記者）

## 猿が恩を返した話

金子彦二郎

## 一

いまの九州がまだ筑紫とか鎮西と呼ばれてゐた頃の話です。

その筑紫に名高い不知火といふ怪火が、夜なくくに人の魂を驚かすといふ有明の海に添うた或漁村にあつた出来事です。

漁師の妻の刈藻は、あたしかい春の日を、一日家の中にくすぶつてゐてもと思つて、お隣のかみさんの眞砂さんを誘つて、藻の香のたゞよつて來る美しい磯邊へ出かけてまゐりました。碧い海の面にはやんわりと春霞が蔽ひ包むやうに揺らめいて、飛び交ふ鷗の群がちやうど夢の國に楽しみ遊んでゐる極樂鳥かなぞのやうに見えました。

## 二

色の白い優しい心の持主であつた刈藻は荒くれた漁師の妻には過ぎるといはれるほど美しいそして慈善深い人でした。今年二つになる幼児は、母顔と瓜二つといはれる愛くるしい子供でした。この日

も母親の背中できやつ／＼笑ひながら、磯邊へお伴をしました。磯ではいろ／＼な貝類が採り餘るほどありました。刈藻は背中の子供の機嫌のよいのを幸と、波打際から遙かはなれた平な大きな石の上におろして、居合せた子供に見てゐて貰ひました。

さうして身軽になつた刈藻は、眞砂と一緒にあちらこちらと磯邊をあさり歩いて、家苞を精々たつぷりと満たさうとしてゐました。さうかうしてゐるうちに山の根が海に浸つてゐる磯へ出ました。そこに思ひがけぬ珍しい山のお客様の大きな猿が一疋、たゞさへ赤い顔を紅生姜のやうに染めて、キイ／＼キヤ／＼をめでてゐました。

### 三

小氣味わるくは思つたものゝ、あちこちをきよろ／＼見廻しては異様な叫び聲をたてゝゐる猿の舉動が、何か仔細ありげに思はれたので、二人は目くばせして、そろ／＼と近づいていきました。併し猿は少しも其の場から離れようとしなればかりか、どうやら救ひでも求めてゐるらしいそぶりさへ見えますので、二人は思ひきつて近寄つて見ると、さてこそ人が近づいて來ても其の場を去らないも道理、大きな／＼溝貝に右手の先を咬へられて、抜くには抜かれず、痛さは痛し、どうにもかうにも動きがつかかず、かうして啼き叫んでゐたのであります。察する所、其の貝が口を開いてゐたのを取つて食べようとて手をさし入れると、急に貝が蓋を閉ちて金縛りにしたものと思はれます。

この猿の絶體絶命な實狀を見届けると、男勝りの元氣者の眞砂は雀躍りして喜んで、「思ひもかけぬよい獲物よ、この大猿を討取つて、家路のお土産にしやう。」と、傍にあり合ふ大きな石を取つてあはや投げつけようと身構へました。すると頓驚な聲を立て、

「まあ、お待ちなさいよ、かはいそうちに……」

と言ひながら、それを押しとどめた者があります。それは別人でない刈藻でありました。

刈藻は何だか自分の子供が棒打擲でもされてゐるかのやうに感じて、とてもそれを黙つて視てゐるわけにはいかなかつたのです。それでも涙ぐんで、

「もし眞砂さん、そんな手荒い事をなさるもんぢやありませんよ。」

とおしなだめて、投げうたうとしてゐる石をひつたりしました。

眞砂はせゝら笑つて、

「あなたもあんまりお氣弱な、こんな大した獲物を見つけ出しながら、見すゝけ取り逃がしてたまるものですか。一打ちに打殺して。家へ持歸つて焼いて食べようものを……」

といつて、中々刈藻の助命を聞き入れようとしなかつたのですが、刈藻がおろ／＼聲になつて一生懸命に説き諫めたので、やう／＼思ひ留らせることが出来ました。やつと安心した刈藻は、貝を岩から

引剝がすために持ち合せてゐた木片で、貝の口をこち開けてやりますと、やつとのことで猿は綱體絶命な金縛りの責苦から解き放たれてもう有頂天になつてキヤ／＼わめきながら二三間向ふへ走り退きました。さうしてこちらを振返つて、泣くのか笑ふのかまるで見當もつかない妙竹林な表情をしてお辭儀をペコ／＼致しました。刈藻は快げに打ちうなづきながら、言葉のわかる人間に物言ふやうに、「これお猿よ、お前はもうすでに殺されようとしてゐたのを、やつとの事で命乞ひをしてやつた私の心を忘れてはなりませんよ。」

と言ひきかせますよと、目をバチクリさせて聞いてゐた猿は、如何にもその意味がわかつたらしい顔をして、やをら身を翻へして自分の仲間のある山の方へ走つていくやうでした。

## 五

さて慈悲深い刈藻は貝に對しても親切をつくすことを忘れませんでした。猿を助けてやつた後で、今度はその大きな溝貝をも波打際の沙を掘つて埋めてやり、もう二度と、お猿なんかに取られるやうな淺瀬へ出しやばつてゐるんぢやありませんよ。」と言ひきかせてゐました。

二度この時です、遙か後方で、火のついたやうに泣き出した赤ん坊の泣聲に交つて、

「お母さん、たまた大變……」

「あれ、猿が赤ちやんを……さらつて……」

などゝ口々にわめき立てる聲がしました。

この只ならぬ叫び聲で、子供を後に残して來た刈藻は、全身の血管が一時に硬化し、心臟が咽唯喉もとまでドキンと突きあげるやうに感じました。

で、「どうぞ、不幸な事件が持上つてゐませんやうに……」と心中に念じながら、さつと振返つてうろたへ騒ぐ子供達の方を見やると、

「あれ！」

といつたまゝ屍もちをついてしまひました。

あゝ「どうぞ不幸な事件がおこりませんやうに！」と念じた祈りは滅茶々に踏みにじられてゐました。

そこには今——たつた今、眞砂の氣に逆つてまで救命を願つてやつた其の猿が——感謝の心を一ぱいにして山の方へ逃げ去つたことゝばかり思ひ込んでゐたその猿が、天にも地にもたつた一人のかはいゝ我が兒を、引きさらつて木の深い山の方へ逃げてゆく狂暴な、二目とは見られぬ悲劇が演じられてゐるではありませんか。

この時ばかりは流石佛のやうな柔和な慈悲心そのものゝやうな刈藻も、

「あの恩知らずの山猿奴が……」

と思はず口走らすにはゐられませんでした。すると眞砂は冷い笑を刈藻の顔にちらりと投げかけた、「だから、言はないことぢやありませんよ、面に毛のある物で恩など感じる物があるのですか。あの時あなたが出しやばりさへしなれば、私も大儲けが出来たし、あなたもいとしい兒をさらはれるやうなこともなかつたらうに、飛んでもない馬鹿を見たものだ……」

と怨み言を言つた。が併し、この急迫した場合に今更めいた愚痴を言つてゐても始まらないと、思ひ返し、そこは氣丈者だけあつて、

「さ、さ、早く／＼、姿を見失つては一大事……」

と、まだ餘りの悲しさに地上にべたりと坐つたきりの刈藻をせき立てて、山猿の後を追ひかけました

## 六

樹の間を縫うて行く赤子の泣聲を慕ひながら、息せききつて駆け登る刈藻の口からは、まだ諦められないと見えて——もとより諦められるものでないか——「憎らしい山猿奴……自分の命を助けて貰つたことを有難いとも思はず……人もあらうに、折もあらうに、私の……私のいとし兒をさらつていくとは……あゝ氣の知れない山猿め……あゝ／＼、いとし兒の命さへ無事で取返せたら……南無……阿彌陀……佛……」などいふ言葉がとぎれ／＼に呻くやうに吐き出されました。

併し猿はさうした泣き言などには一向無關心に、どん／＼山深く逃げ込んで往つて、やがてとある

大きな木の上へ、赤ん坊を小脇に抱へたまゝすると攀ぢ上つてしまひました。

## 七

やつと其の木の根もとに辿りついて二人は、心に身に添はず、「今喰はれるか」と、おどくしで見上げてゐましたが、眞砂はふと氣がついて、「もうかうして居場所を突きとめたからには、男の手で取り返して貰ふより外に仕方がない。これから私は一走りして、あなたのお宅の方に告げて來ます。」といつて一散に元來た道を駆け戻りました。

後には母親の刈藻がたゞ一人、俎の上に載せられた鯉の運命を見守つてゐるやうな身も世もない破裂しさうな心臓をそつと押へつけてゐるやうな心持で、涙で曇る眼を見はつてゐます。

## 八

三丈ほどもある大木の上に、いよ／＼自分の落ちつき場所を求め得た件の猿は、右手を伸して側の大きな枝をぐつと引き撓めると、今度は左の小脇に抱へ込んでゐる赤ん坊をぎゅーとしめつけるやうにします。もう泣いて泣いて泣き疲れてゐる赤ん坊は、この不意の壓迫に、また「きやあ！」と泣き出しました。

「今こそ……山猿の餌食に……」と、母親は思はず仰いでゐた顔をふせて、眼を蔽うてしまひました。が泣聲がまだ續いてゐる所を見ると、まだ生命はあるらしい。



と、この時、さあーつと空が翳つて來たやうに感じたので、思はず又空を見上げると、見るからに肝が冷えるやうな大鷲が一羽、赤兒の泣聲をきいて「よきゑさがある」とでも思つたものか、猿の方へ羽搏き恐ろしく翔け寄つて來ます。

母親はまた化石するやうな恐怖を身に感じて面を俯せました。さうして心中に「山猿だけでも助からないと思つてゐるのに、おまけにあんな大鷲にでも狙はれては、もう頼の綱も切れた。ことによつたらこの私までも大鷲の餌食になるかも知れない。もう仕事がない！」と、觀念冥目して、掌を合せて念佛を唱へました。

## 九

かうした諦めが母親刈藻の胸を横ぎつた次の一刹那です。目を閉ぢて俯いてゐる母親の眼前三尺の處へ、恐しい地響とともに、何か大きな物體が墜落して來ました。

「あつ！」

と驚きの聲をあげた母親は、てつきりそれが自分のかはいい赤ん坊だと思つてゐました。だがその驚きと同時に覺えず打開いた眼の窓に映つたものは、意外にも、猛惡な大鷲の血まぶれな骸でありました。

大鷲の死骸に度膽をぬかれて見入つてゐた母親は、やがて又さつきの諦めを忘れて樹の上

の我が兒は如何にと見上げました。と、猿は快ささうに目をバリクリさせてゐて、子供を取喰はうとする風も見えませんが、それで母親がやゝ安心して見つめてゐると、猿はまたさつきの枝を撓め寄せて、子供を泣かせます。

「今度といふ今度、取喰はれるんだ。」

と思つた母親は、併し少し大膽になつたと見え、やはり目をはなたずに猿の舉動を見まもつてゐました。すると又泣聲をきいて飛んで來た物がありません。それも前の劣らないほどの大鷲でありました。いよゝゝ鋭い曲つた嘴が、強い翼が猿に飛びつかうとする刹那、満月のやうに撓めしぼられてゐた例の枝がぶんと唸りを生じて猿の右手から放たれました。と同時に又地響させて大鷲が落ちて來ます。

かうして一伍一什をじつと見つめてゐた母親刈藻には、やつと猿のすることに合點が이었습니다。

「おゝゝ、猿は私の赤兒を取つて食べるのではなかつた。私に思返しをしようと思つて、鷲を打殺して禮物にする積りなのだ。」

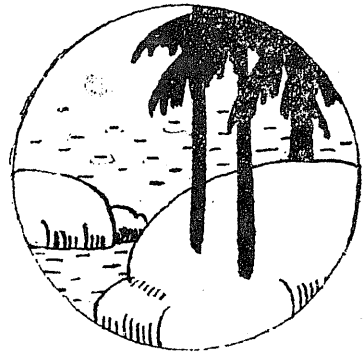
かう分つて來ると、母親の顔には俄かに生々と血の氣が戻つてまゐりました。さうして又人間に物言ふやうに「おゝ、猿よ、お前の志の程は十分分つた。もうゝゝいいから、赤兒を返しておくれよ。」と言ひましたが、猿は又も同じやうな手段で、とうゝゝ大鷲を五羽まで弾き殺して、さておもむろに木を傳つて下りて來て、赤兒をそつと其の木の根もとに置いて、急いで木の梢にかけ登り、腕を揉ん

だり背中を掻いたりしてゐました。

一〇

さて母親がもうてつきり殺されたと思つた我が兒に再會の出來た歡喜に浸つて、嬉し泣きに泣きながら乳をふくませてゐる時、眞砂の注進を聞いて取るものも取りあへず駈けつけた夫の漁師が來合せました。父の喜び、母の喜び、子の喜び、この三つの喜びが巴をなしてくるめきをどつてゐるのを見下してゐた彼の山猿は、いつしか梢傳ひに姿を隠してゐました。

夫が安堵の胸を撫でおろした頃、妻の刈藻がたつた今しがた見せつけられた怖い光景について物語ると、夫も非常に不思議なことだと感歎し、五羽の大鷲の羽を抜き取つて家に歸り、その尾や羽を賣つて少なからぬお金を儲けました。(一五、一、一九)



## 和歌山保育會の成立と活動

中 村 楠 雄

究の便宜や發表の機會を得且つ幼兒教育運動の爲

めに盡したいと考へた居ります。

尙托兒所の方々も加はつてゐる事ははからずも  
文部省あたりの意見と合致（幼稚園令制定の趣旨  
などを見て）してゐた事を知つて愉快に思つてゐ  
る次第であります。

### (二)

六月八日發起人會を開きました。そして設立に  
關する各種の相談並びに會則原案等を作りました

本會は大正十四年七月十五日に成立致しました  
隨分古い幼稚園もあるのですが、何分幼稚園の數  
も少なかつた爲めに今まで其のまゝになつてゐた  
のであります。けれども此頃幼稚園の數も増して  
來ましたし其の上托兒所も四ヶ所出來たと云ふ具  
合に幼兒の保育に従事する者の數もずつとふへた  
ので遂に本會の成立を見るに至つたのであります  
こうした團體の力によつて相互に益しあひ、研

其の後會員募集につとめました。托兒所全部、聖救主幼稚園、鷺の森幼稚園、新町幼稚園、和歌山幼稚園等も残らず賛成加入を致しました。

七月十三日に幼稚園及托兒所の主任者全部聖救主幼稚園に集合して發會式に關する諸般の打合せを行ひました。

七月十五日午後一時より愈々發會式を舉行致しましたが當日の主なる來賓は左の通りであります。

縣視學 森 慶 三氏

市學務課長 水田敏太郎氏

市社會課長 米田徳兵衛氏

攻玉協會長 森 財氏

宇治小學長 阪 田 將 六氏

大阪毎日新聞記者

大阪朝日新聞記者

和歌山幼稚園保護者同志會幹事 三 名

尙又當日の發會式の様子は左の通りであります。

た。

來賓及會員の入場がありまして一同直ちに「君が代」を合唱致しました。ついで新町幼稚園の越路氏の動議でまづ座長推薦を行ひました所不肖私が選ばれました。それから座長司會の下に第一着に會長の推薦を行ひましたが萬場一致市學務課長水田敏太郎氏が推舉されました。そして水田氏は一同の拍手裏に登壇されて承諾を兼ねて御挨拶がありました。(當日は以上の様な便宜の方法によつた)これからは全く水田氏議長となられて會則の審議、役員の推薦選舉等の事を決行せられました。愈々會則も議定され役員も決定してここに全く和歌山保育會なるものが生れたのであります。

ついで縣視學森慶三氏社會課長米田徳兵衛氏等の祝辭があり更らに水田會長の挨拶があつて無事閉會となりました。

それから席を改めて茶菓を出し來賓會員とも打

ちつくりいで幼児教育談に花を咲かせ夕割散會至  
しました。

(三)

和歌山市保育會規則

第一條 本會は保育事業の發展と研究を以て目的

とす

第二條 本會は和歌山市保育會と稱し事務所を和

歌山幼稚園に置く

第三條 本會事業の概要左の如し

一、總集會 毎年一回之を開き事業並に  
會計報告等をなす

一、研究會 毎年數回保育に關する實際  
並に學理の研究を爲す

一、講演會 幼児教育に關する講演會を  
開く

一、講習會 幼児教育に關する事項の講

習をなす  
一、右の他本會の目的を達する爲め必要  
と認る事業

第四條 本會に左の役員を置く

總裁 一名

會長 一名

副會長 一名

幹事 五名

評議員 若干名

顧問 若干名

第五條 總裁は本會を總督し會長は本會を統括し

會議の際議長となり副會長は會長事故ある  
場合に之れが代理をなす幹事は會長の命を

受け本會の事務に當り評議員は本會員に代  
りて本會事業を議決す顧問は本會事業に關

し専門的援助をなすものとす

第六條 總裁、會長、副會長は總會に於て幹事及

顧問は會長之を委囑し評議員は會員の互選によ選りて之を選擧す

幹事及評議員の任期は二ケ年とす

第七條 本會員を分ちて普通會員、特別會員、名譽會員とす

一、普通會員は當市内に於て保育事業に従事する職員にして月額金貳拾錢を納むるものとす

一、特別會員は本會の趣旨に賛同したるものにして年額金參圓以上を納むるものとす

但し分納を妨げず

一、名譽會員は本會に功勞ある人にして本會評議員會に於て推薦したるものとす

第八條 本會の經員の會費並に寄附金を以て之に

充つ

第九條 本會に入會、退會、及會員にして住所氏

名の異動ある場合は幹事を経て届出づべし

第十條 本會は全國保育會に聲合す

第十一條 本會規則は總會議決を経るにあらざれば之を變更することを得ず

和歌山市保育會

### 入會申込書

貴會の趣旨に賛同し入會申侯也

住所  
職業

大正 年 月 日

和歌山市保育會御中

(四)

和歌山市保育會役員

總裁 和歌山市長 男爵

會長 市學務課長

副會長 和歌山幼稚園長

幹事 新町幼稚園

聖救主幼稚園

鷺の森幼稚園

第四幼兒預所

第一幼兒預所

評議員 和歌山幼稚園

新町幼稚園

鷺の森幼稚園

第二幼兒預所

第三幼兒預所

顧問 和歌山縣學務課長

紀 俊 秀

水田敏太郎

中村 楠 雄

越 路 節

大鳥居富喜

里見とも子

堅谷タメイ

明 珍 春 枝

的 場 光 惠

小 山 初 枝

小 竹 安 子

川 崎 ヒ サ エ

岡 本 ハ ナ

(前任者轉任  
後任へ交渉中)

四八

和歌山縣視學 森 慶 三

市社會課長 米田 德兵衛

和歌山縣師範學校長 有元 久五郎

和歌山縣師範學校 附屬小學校主事 中野 八十八

和歌山縣立和歌山 高等女學校長 松 扉 得 悟

和歌山市立實科 高等女學校長 須 藤 丑 彦

和歌山市攻玉協會長 森 財

和歌山幼稚園兒保護 者同志會長 中井 喜代楠

新町幼稚園母姉會長 糸川 婦美子

聖救主教會牧師 八木 善三郎

鷺の森別院輪番 桑 原 賢 亮

(五)

八月廿六日から三日間、久保富次郎氏を聘して  
新遊戯講習會を開催致しました。會場として附屬  
小學校の講堂を拜借しましたが出席會員二百數十



名もありましたので場所がせまくて練習に不都合を感じる位でありました。それでも會員の方には何らの苦情も申されず日々早朝から夕刻までそれはく熱心な練習振りでありました。それが爲めに最後の日には講師の先生をして和歌山の人は器用だとの聲をもらしめた程であります。

### 講習會狀況概要

#### 第一日

1、會長開會の辭  
2、久保講師挨拶

3、遊戯練習  
金魚のひるね、 てるてる坊主

#### 第二日

1、遊戯練習  
青い空  
かもめ、 雨、 ボーフラおどり  
春の風

#### 第三日

1、遊戯練習  
お星様、 かへるつばめ  
夏のうぐひす  
2、證書授與  
3、講習員總代謝辭  
4、會長閉會の辭  
5、久保講師挨拶  
以上

十二月十九日全員和歌山幼稚園に集合し自分らの手で料理萬端準備し第一回の忘年會を催しました。

其の時來三學期に入つてから

□、和歌山高等小學校長 川村徳治氏を聘して  
支那視察報を聞くこと。

□、師範學校附屬小學校訓導 堀内喜一郎氏を  
聘して圖畫教育に關する講習を受けること。

□、振替口座に加入すること。

等を相談するとか、幼稚園令制定に對する感想を吐くとか生真面目な事もありましたが種々様々の隱藝が續出して和氣霽々たることに面白いよい集りでありました。

あと片附も全部すんで皆歸つて行つたのは最早電燈のつく頃となつて居りました。(大正十四、十二、二四)

# 我が園の一日

舞鶴町立幼稚園 山崎 ひさ子

冷たき北風にもう冬ごもりと云ふ十二月一日大

正十四年最終の登山記録

心地よく晴れて空には一點の曇りもない麗らかなさ、されど野山の色は早くもあせて道端の千草は霜枯の淋しさ、水の流れもすつかり冬である。けれども幼き子等はのび／＼としてさながら春の小鳥のやうだ。思ひ／＼の楽しい物語りの道行のうち去年渡つた十五間もあらうと云ふ板橋へきた。どん／＼橋どん／＼どん、どん／＼橋どん／＼どんと足音ならして元氣よく一列にならんだ橋の上の大喜びは實に大したものであつたと共に心弱き數名は命から／＼やつと渡ることが出來た。直ぐ

に山道にさしかゐる。

先生はすつかりおいてきばりに、彼等は足をはやめて兎の様にすん／＼のぼり、やがて萬歲々々の聲をはなつて先生をむかへた。

見渡す限り陽光はあたゝかに輝きて真に美しい大自然に抱かれた。あゝこの喜び幸ひなるかな、地方園児等よと涙ぐましい程に尊い山上の樂園。九十餘名の幼児はあちこちに各が求めるものに餘念がない。赤い木の實や黒い木の實、粘土掘にまゝごと遊び、山上がりや鬼退治等時は夢とすぎて名残惜しくも歸途をせかれ皇孫殿下御降誕記念にて二三の小松を手にして下山した。A兒、今日の

遠足面白かつた。B 兒、先生お辨當を持って又つれて行つて、C 兒、エベレスト山高いね、富士山へ登りたいね。D 兒、あの山紫色ね等語りつ歌ひつして二つ橋にさしかゝつた。先生お星さんが水呑んどつてや、一幼兒の驚きの聲にはつと立ち止まりて川を眺む美しい水の流れにきら／＼と太陽の光は無数の星を宿してほんとうに美味しい水を呑んでゐる。餘りの美しい情緒と其の光景に驚歎したのであつた。同時にお天とさんの星がうつつたのですねと誰かど云つた。E 兒、いなごを持つて

る先生水に流したら可愛そうやね。大層困るでせうよ間もなく「先生草の上にはなしたと云ふ。すると又 F 兒、家の方ではね「猫の子が生れるとねみな海へ流してんやで、そして少し泳いで皆死んでしまふ」と、「まあ可愛そうにね」と答へて話を轉じやがて歸園した。小松は可愛らしく植へられた皆が見てゐる。私は「根付いて大きくなつてほしいね」と言つた寛ちやん水を持つて「大きくなれ大きくなれ」と注ぎかけだをして一同がほゝえんだ。

○春水に小舟持ちたる裏戸かな

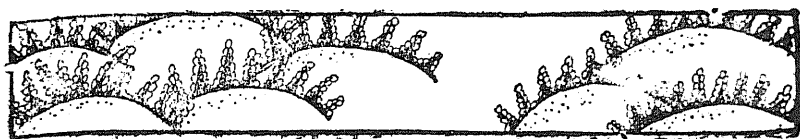
虚 子

○ひた／＼と春の潮打つ鳥居かな

碧 梧 桐

○三つ食へば葉三片や櫻餅

虚 子



## 「兼ちゃん」

東京女子師範學校教授 岡 田 美 津

### (一一) 船 漕 ぎ

兼ちゃんは、船の艦の方に、母親と妹との傍に居たが、

「あたいにも漕がしてよ。お父ちゃん。」と言つた。

「そうだな、漕がしてやらう。」と吉藏は一服やりながら暢氣らしく漕いでゐた。

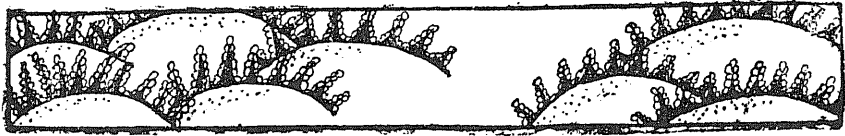
「いゝえ、漕いぢやいけない。」とお芳が絶叫した。

「なせ 母ちゃん。」

「なせでも。そして坐つておいで、船がひつくりかへるといけないから。」

「この子は大丈夫だ。」と父親はいつて「漕ぎたいつていふなら漕が……」

「いゝえ、兼坊はそこに居なければいけない。」とお芳は答へた「新聞によく出てゐる溺死なんていふのは、大概船で席を換へたりするからなんだよ。お前さん知つてるぢやないか……船中で何もあぶない事をしないとおいひだから私や今日一所に來たんだらう。」



「ウン、おめいは恐がりンばだな。」と好人物らしく吉藏はいつた。

「あゝ恐がりン坊だとも。船が顛覆りかへつてごらん、私や千代坊をどうしていゝか分りはしない。水ん中へお陀佛は有難くないもの。」

「何をいふんだ！ さ、兼坊、救へてやらう……」

「そこ動くときかないよ、兼公。」

「あたゝい漕ぎたいンだもの、母ちやん。」

「いげないつて言つてるぢやないか。千代ちやんをごらんまあおとなしいね。千代さんは漕ぎたがつてみんなを水死させたりしないね、坊や。」

千代ちやんは飴ン棒をあいかはらずしやぶつてゐて何とも言はなかつた。

千代ちやんなんかまだ小さいンだもの。」と兼公は嘲げるやうにいつて「どうして、あたゝい漕いぢやいけけないの。」

ほんとにこの子はまあ！ いけないツたらそれでもういゝぢやないか。

向ふの快走船をごらん。あの向ふの大きなの、黄色い煙出しのあるあれさ。」

「煙出しぢやないや、煙突だい。」と兼公はすましていつた。

「どつちだつて同じさ。」と母は同意して「あの汽船が棧橋に着くンだよ。」



黄色い煙出し……ぢやない煙突があるネ。」

「あたい黄色より煙突の方が好きだな。母ちやん、あたい漕いでもいい。」

「どうしたッていふのさ。いけないッていふのにいつまでも漕ぐ事ばかり言ッてる。もし船がひつくりかへッて、鯨に呑まれたら困るだらう。」

「こゝにア、鯨なんか居ないよ。」

「居るさ。」

「お祖父ちやんが居ないッていつたもの。お祖父ちやんはよく知ッてるンだよ。」

吉藏は笑ひ出した。「一本參つたなお芳、おめい自分の親の言語を疑ふ譯にもゆくまい。」

「それアネ。まあ普通にや鯨は居ないかも知れないが、ソロモンも言ふ通り海ン中に何が居るか分つたもンぢやない。」

「鯨は人間を恐がるンだよ。」と兼公が言つた。

「鯨はヨナ（聖書にある豫言者の名）を恐がらなかつたぢやないか。」と母親がいふ。

「もしあたいヨナだつたら……」

「お前四十日四十夜鯨の腹ン中に居なくちやならない。」

「居るもんか。」



「だつて居るのさ！ 鯨のお腹ン中はいやだらうよ。」

「ううん、ナイフやピンで刺したり突いたりすれば鯨はあたいを出しちまふよ。」と勇猛に兼公は話した。

吉藏は聲をあげて笑つた。お芳はたしなめるやうに、

「兼公が馬鹿氣た事をいつても、お前さん笑つちやいけませんよ。この子はいゝ氣になつて、くだらない事をいつたり、自慢をしたりするぢやないか。……兼坊、お前もし鯨のお腹ン中にあれば母ちゃんくつて泣いて騒ぐんだよ。」

「そんな事するもんか！」

「するとも！ だからそんなナイフだのピンだのを偉さうに言ふもんぢやないよ。」

「ヨナは母ちゃんくつて泣いたかね、母ちゃん。」

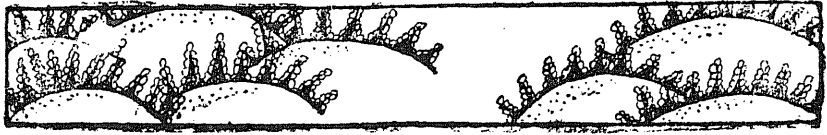
「あゝ、黙つておいで。あの帆をかけた、ちいさい船をごらん。」

「どうしてこの船には帆がないの。」

「帆柱がないもの、な、」と父親が答へた。

「どうして橋がないの、お父ちゃん。」

「だつて、これは漕ぐ船だもの。」



「あたい漕いでもいゝかい。」

「いくどもくゝいけないッて言つたぢやないか。」と母親は叫んで千代坊の飴ン棒の端をしきりと紙で巻いてゐた。

「いつ漕がしてくれるの。」

「今はいけないの。」

「もうすこしすれば漕がせてくれる？ 母ちゃん。」

「今日は漕がせないからもう……」

「ぢやあした漕がせてくれる？」

「え、もう！ こんなうるさい子つてありやしない！ 佛様だつて腹を立つちまふよ。何だつてそう漕ぎたいのさ。」

「たゞ漕ぎたいんだよ。」

「漕がせてやつたらいゝぢやないか。」と父親は穩かにいつた。

「いゝへ、漕がせませんよ！ 私が何十遍といけないくゝッていつてるのにさせたらいゝ、なんてお前さん、もすこし物が解りさうなものだね。」

「だつてもよ あんなに落膽してゐるから。」





「溺死するよりや落膽した方がいゝ。」ときつぱり言ひ切つて「お前さんどこへ行くの。」とお芳が急に尋ねた。

「あの汽船の波をうけに行くんだ。」と彼はパイプを下に置いて急に力を入れて漕ぎ出した。「何するツていふの。」

「あの汽船の波をうけてな、すこし動搖させやうツてんだ。」

「私やそんな事は澤山だよ。」

「どうしてさ。兼坊はゆれるのが好きだぜ、な、兼坊。」

「あゝ」とつまらなさうに考へこんでゐた兼公は元氣づいて「あたゝい船がゆらくするの好きだよ。」

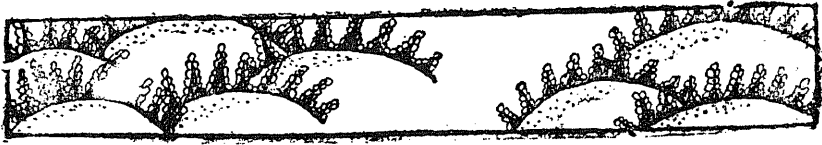
「お前さん、止しておくれよ！きつと汽船の外輪に引かけられちまふ！」

「大丈夫だよ。」

「大丈夫ぢやないよ！私や首も腕も脚もちぎられて、おまけに溺死までさせられたくないから。」

「外輪で首や何かちぎれるの。」と興ありけに兼公が尋ねた。

「そうとも。」とお芳は答へた。吉藏が進路を變へれのを見て彼女はやつと安心した。



「そうすると首が機關の中へ入つちまふの？」と子供はなほも尋ねた。

「うるさい、黙つておいで！ 何て事を考へるんだらうな子供のくせに。」とお芳は吉藏に對つて話した。

「あたいの首も……」

「よせよ！ 母ちゃんがいやがるから。」

「どうして。」

誰も返事をしてくれないので兼ちゃんは黙つて何の考へてゐたがそれもやつと三四分の間で

「あたい漕いでもいゝ。」

「赤い煙突の船が入つて來た。」と父親がいふ。

「あたい漕いで……」

「やア、あの船に大勢人が乗つてゐる、兼坊あの群衆が見えるだらう。」

「あゝ、あのあたい漕……」

「さ、兼坊。」と懷中をさぐつてゐたお芳は「お菓子上げよう。」

「ありがたう。」といつて兼公は一寸の間おとなしくしてゐたが



「あたししびれが切れちゃつた！ 立つてドタバタしたいな。」と言ひ出した。

「こゝでドタバタ出来ないよ。」と母親は禁止して脚をこすつて、床を叩くやうにしてごらん立つちやいけませんよ。」

「兼公は暫時摩擦つたり叩いたりしたが効力もないらしく、

「チク／＼ピリ／＼ツとする！ だん／＼甚くなる。」と訴へた。

「我慢おしよ、船中で踊つたりはねたり出来ないもの。」と母親は同情して「脚をふるよ うにしてごらん。」

兼公は烈しく脚を振つたが、やはりしびれは癒らないと見え、さも氣持がわるさうな顔をしてゐた。

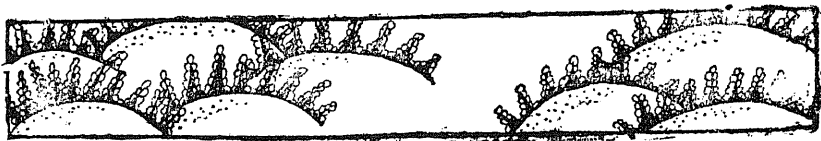
「あ、ジン／＼する。」といくども／＼彼は言つた。

「可哀さうにな！ しびれの切れるツて奴はいやなもんで。なアお芳。」

「ほんとだよ。私や一度教會でそうなつて死にさうな氣がしたツけ。兼坊まだよくならな いかい。」

「ならない。ひどくなる。」

父も母も本氣で心配し出した。



「しやうがないから上陸つて、足を伸ばさせやうか。」とお芳がいふ。

「そうだな。あんまり長く坐つて居たので痙攣を起こしたんだ。子供はふだんじつとして坐つてゐないからな。坊や、いけないか。」

「足がジン／＼する。」と兼公は答へた。

「お芳。」と吉藏は急に言ひ出した。「すこし漕がしてやつたら、どう……」

「いいない、いけない。船中ではね廻はられるのはかなはない。毎日溺死人があるのは船の中で席を變へるからだよ。」

兼公は、急に擦ることも叩くことも振ることも停めてしまつて、

「あたゐ、そつと這つて行くよ。母ちゃん。」と言つた。

「それに、この子はまだ年がいかないから。」とお芳はやはり反對した。

「そうぢやないや。初ちゃんなんかあたゐより小さいけれど漕ぐよ。」

「お前、足少しよくなつたの。」

「ならない。」と大急ぎで擦つたり、叩いたりを始めて「初ちゃんこの小母さんは漕がせるよ。」と言ひ添へた。

「ぢや、お前、初ちゃんこの小母ちゃんを母ちゃんにしたいだらう。」

とお芳は夫の顔を見ながらいつた。

兼公は聞こえぬかして知らん顔してゐた。

「兼坊、母ちゃんは何ていつたかきいたかい。初ちやんとこの小母さんお母ちゃんにしたらどうだとさ。」

「いやなことツた。」と兼公はてきばさと答へた。「あたいうちの母ちゃんが一番いゝんだ。」

「いやな子！」とお芳は歎息して「ほんとに氣を付けければ、漕がせて上げるよ。」

(一一) 了り



○白酒をこぼしてをかし毛虫眉

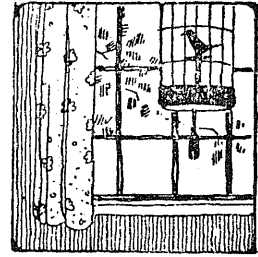
零 餘 子

○ほろ／＼と泣き合ふ尼や山葵漬

虚 子

○花の雲かゝりて遠し春日傘

青 々



# 自由遊び

ふじの譯

東テキサス州師範大學の練習學校長ビツケット、同大學幼稚園長デュラルテイ、ホーレン著幼兒教育の第一章を譯したのである。吾々幼稚園關係者小學校初學年教師の參考となることが甚だ多いと思はれるから特に本欄に掲載する。

ソーンダイク博士は教育の主なる目的の一つは實に現在の幸福であると陳べて居ります。併し私共は現在の教室と云ふものは何の興味もなく設備も貧弱な不愉快な所で、子供達はこんな教室で教へを受けなければならぬのだと云ふ事を知つて居りますのに、大多數の先生が容易くこの主義を受け入れるであらうとはどうして考へ得られませう、こんな環境ではどんな子供が幸福であり得ませう？

子供達は先生の許しが無くては動き廻つてはいけません。又お友達とお話すると罰せられるのです。要するに子供達は、家庭とも運動場とも又は外のどんな處とも全く異つてゐる教室と云ふものゝ中に入れられてゐるのです。

今日教育に熱心な良い先生は、教室を愉快な所にしよう又子供をも幸福にしようと努力してゐます。子供は氣樂なりのまゝな氣持でゐられる時や又は思ふ存分働いたり又遊んだり歌つたりお話ししたりする事が出来る時に幸福です。又教室は、丸で自分達の家庭の様に温かく面白くあれは愉快なのです。こゝうゆう風ですと低學年の子供は課業がひけても家へ歸らうとしません。毎日午後になると、學校は愉快だからもつと遊んでゐたいと云つて先生の所に願にまゐります。

今日私共はこゝうゆう事を知りました。それは數ヶ月間も子供と一緒に何か仕事をするよりも子供達の遊んでゐる様を見てゐる方がよつほど子供と云ふものを餘計知る事が出来る、と云ふ事です。フレ―ベルは遊びの中に教育的な作きのある事を認めた最初の人でした。この作きをどうゆう方法で發達させるかと云ふ事は、フレ―ベル以後の指導者が考へなければならぬ問題であります。近頃の凡ての兒童教育者は、自由時間についての問題を非常に重要視して社會に向つてその問題を提出してゐます。提出されてゐる問題は一九一八年に開かれた米國の「初等教育委員會會議」で報告されてゐる様に、次の様なものであります。

自由遊びは、子供の成長發展にとつて本質的の價值を持つものであうか。

子供の作業は常に教師が計畫したものでなければならぬであらうか。

子供が發案した計畫に對しては、その實行の機會を與へなければならぬであらうか。

教室の中を駆け廻らなければ出来ない仕事は課さるべきであらうか、又は子供が發案した場合であるならそれは許さるべきであらうか。

之等の問題は、この章で論ぜられるではありません。

自由とはもはや勝手氣儘と云ふ事を意味しなくなりました。併し他人の邪魔もせず又自分で自分の力やエナージーを制御する事が出来れば、思ひ通りにしても之は自由と云ふ事が出来ます。今日の問題は、子供達は自己を表現したい衝動に驅られてゐるのであるが、この表現の機會を與へるにはどうしてたらいいだらうか、と云ふ問題であります。自由とか自己活動とか云ふ言葉は私共教師のよく使ふ言葉でありませう。自由も自己活動も共に、社會的立場から見ても又は教育的な立場から見ても非常に價値があり又必要であると認められてゐるものを標準として、之に應じる様に指導されなければなりません。近世の幼稚園は保育の一部として自由遊びをさせ、この遊びの間に、今云つた様な指導をしようとして居ります。

自由遊びの古い一つの形式は、始業前の二〇分か又は短い休憩時間でありました。この時には子供達は思ふ存分遊んでもいいのです。或る子供は一人で何かしてゐました、又五六人で何かしてゐました。或子供は自分達の席で何かしてゐました。又他の子供連はお室の隅の方で繪本を見てゐました。この様な自由遊びの形式を採つてゐる幼稚園を參觀した時に、六人の一群の子供はお砂場で遊んでゐました。



三人は繪本を見てゐました。或る兒はボールを蹴つてゐました。或る兒はゾーキンをかけてゐました。二人の兒はお花に水をやつてゐました。又他の二人は南京玉をつないで居りました。四人は自分の席でお繪書きをしてゐました二人の子はお人形のお家の家具を拵へてゐました。

自由遊びの他の形式、それは殆ど自由遊びと云ふ事が出来ないのですが、材料を與へられた自由遊びであります、課された仕事です。しまつた後で残つてゐる材料は子供の好きな様に使つてもいいのです。此形式の自由遊びに於て、子供に與へられるところのたゞ一つの自由は、この材料を用ひて何を拵へるかを決める事、でございます、子供はちやんと自分の席についてゐなければなりませんので身體的自由は持つてゐないのです。子供は自分の席に着いて居つて紙の椅子を作る様に課されてゐるのです、課業後の自由遊びの時には大抵の子供は前と同じ様に紙の椅子を拵へるか又は前の課業の時に命じられてゐる何かを作りつゞけます。或る子供は自分の材料でもつていろいろな事をして見るのを、自由だと感じる様に思はれます。子供は紙を折つたり又はのそり／＼と切紙をしたりいたします。そして出來た變な恰好のものを自分でお猿さんだなど、云つて居ります。

自由遊びの第三の形式それは大抵の幼稚園や小學校の低學年で用ひられてゐるのですが、一週一度の自由日であります、そして自由日には子供は、午前中自分の好きな仕事でも、遊びでも何でもしてもいいと許されてゐるのです、之は自由の無いのよりは良いが併し其週に於て一定の時に自由を強

ひてゐるのであつて、眞の自由ではありません。自由日の様なやり方に適應しない中に、一週四日と云ふものは前の様なやり方に歸らせられてしまふのであります、その結果は分解であり混亂であります、子供達は迷つた様な失神した様な状態になります、丁度大きなボンボンを、一生懸命に手を伸して捕へ様とすると、グツト洩かれてしまふ様な状態です。

自由遊びの一番良い形式は、毎朝の自由遊びであります。自由遊びは保育の一部でなければならぬし又その日のプログラムの中で最も注意して計畫され組織されたものでなければなりません。先生は自由遊びは各兒の發展の爲にどうゆう風であればいゝかと云ふ事を知らねばなりません。

そして良い結果を得る様に子供の周圍をいろ／＼に工夫してやらなければなりません。又先生は子供の爲に、良い刺激となる材料や新しい興味を惹起する材料、及び技術の練習となる様な材料でもつて、子供達の周圍を充してやらねばなりません。個人として又社會人として良い習慣を持たせるには幼時より準備をしてやらねばなりませんから。自由遊びの時の良い活動からは良い習慣が、形成されるものであります、幼稚園や小學校の低學年に自由遊びが必要であると云ふことを主張する人にとつて、之はどんなに力強い辯護をし、確かな證據となる事でせう。(未完)

告 稟

定 規 文 注

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。  
 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。  
 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に  
 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
 日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。  
 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は月て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)  
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。  
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。  
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。  
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定 價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料	貳錢
半々年分六冊	金貳圓拾錢	送料	共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料	共

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

大正十五年二月十日 印刷  
 大正十五年二月十五日發行

幼兒の教育 第二十六卷 第二號

不 許 複 製  
 禁 轉 載

編輯兼 發行所 堀 七 藏  
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五  
 東京市牛込區山吹町一九八

印刷者 大杉直次郎  
 東京市牛込區山吹町一九八  
 印刷所 大杉印刷所

發行所 日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
 振替口座東京一七二六六番

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓  
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷  
 神出區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

たいつの作動

唱歌と踊り

# 歌いしや

錢八拾料送・圓貳價定

本書は改版に際して四冊に分れてゐたものを一冊に収録しました。その方が使用者諸士の非常なる便宜であると思つたからであります。編輯にも極力意を用ひて従來の方針を根柢から改め、曲譜・略譜・歌詞・振付などもまちまちであつたものを統一してわかり易く一ヶ所に集めました。それで大變使用上便利にもなりましたし、全く一變した立派なものになりました。心から兒童を愛し兒童に魂の糧を與へやうと御考へになつてゐるあらゆる小學校、幼稚園、家庭に本書は備へられなければなりません。

一九二五十一月

厚生閣編輯部

詩 作

傳田次郎氏  
黒田みのる氏  
法月歌客氏  
千葉春雄氏  
中村雨紅氏  
福山天陰氏  
北原白秋氏  
加藤まさみ氏  
村山カズミ氏  
眞田範衛氏  
三好英貞瑞氏

曲 作

佐々木すぐる氏  
梁田貞氏  
草川信氏  
水野康孝氏  
杉山はせを氏  
松島舜氏  
林松木氏  
大和田愛羅氏  
室崎琴月氏  
眞島陸美氏  
水谷しきを氏  
印牧すゑを氏  
平田やちよ氏

「動作のついたやさしい唱歌」御家庭と云はず校庭と云はず狭い教室と云はず廣々とした野原の眞中と云はず恐らく子供が三々五々集ひ得る所であれば容易に實演出來るのです。

版四

體育教材  
としての

學校舞踏二十四講

小瀬峰 洋著

定價 十二圓  
送料 十八錢

發 兌 東 京 芝 橋 區 八 幡 町 廿 五 番 五 號 厚 生 閣



# 三月の御準備に

● 下記の品三月末日迄に御注文の方に限り  
荷造送料共御負け致します

保育證書 一枚 ￥0.05

(金箍付)(保育用品目録59頁参照)

寫生額 一個 ￥0.20

(寫生板掛額兼用)(保育用品目録64頁参照)

彩色帖 一冊 ￥0.30

(おりゑ)(保育用品目録8頁参照)

お道具箱(上) 一個 ￥1.30

(保育用品目録64頁参照)

お道具箱(並) 一個 ￥0.50

(容器, 西洋鋏, クレオン, 粘土籠, 糊籠)

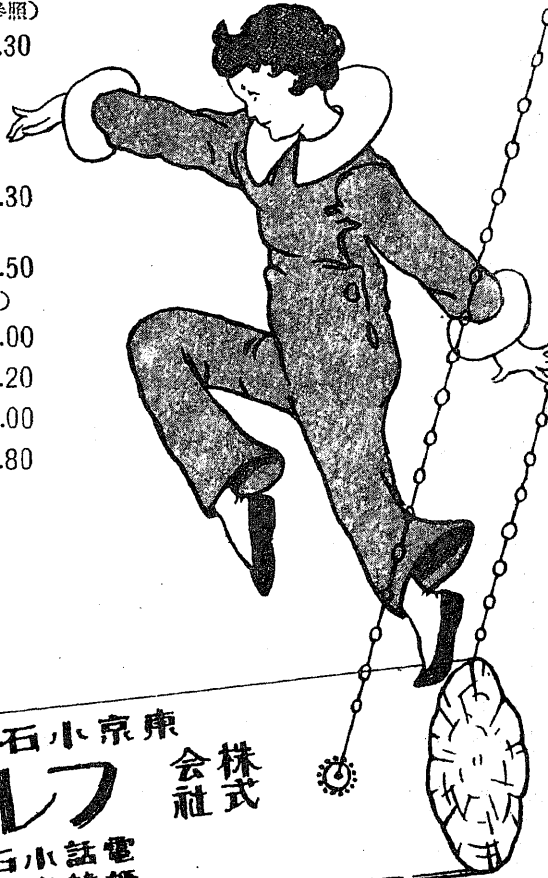
出席簿用紙 百枚 ￥2.00

在園簿用紙 百枚 ￥1.20

月謝袋 百枚 ￥3.00

豫定案兼日誌 一冊 ￥1.80

(一年分)



東京小石川区指ヶ谷

## ベレーフ

株式會社

電話 小石川三六〇  
東京替換 四六九一



● 注文は即時に然らざれば期末は立て込みます ●

大正十五年二月二十五日印刷

定 價 金 三 十 五 錢